

Wharf Construction of
Tokyo International Cruise Terminal
Tokyo, Japan 2020

Reclamation of Pulau Tekong
Singapore 2015

私たちの今が、社会の未来を創る

Create Value, Build the Future

社会情勢の変化に対応する「しなやかさ」、激しい時代の潮流を掴む「俊敏さ」
志を持って自身の成長を求める「自分らしさ」、地に足をつけて着実に前進する「一歩先へ」

これらは私たちが実践する行動スローガンです。

私たちは今、この時の行動ひとつひとつを大切にし、

これからの社会に新たな価値を創造し、ステークホルダーのみならずともに
未来の社会に貢献し続けることを約束します。



Bali Theater Hall
Indonesia 2019

Toyo Suisan Ishikari
Distribution Center
Hokkaido, Japan 2020



Improvement of
National Route 45 at Sakanoshita
Iwate, Japan 2020



波となぎさ

Wave & Beach



「静かなる月島川水門」小森一美
（「港の風景」写真コンテスト2024 港湾海岸
防災協議会会長賞作品）

C O N T E N T S

特 集

02 和倉温泉の生業（なりわい）の 再開に向けた護岸復旧の取り組み

国土交通省 北陸地方整備局 能登港湾空港復興推進室長 美野 智彦

04 令和7年度当初港湾・海岸関係予算（案）について

国土交通省 港湾局 計画課 課長補佐 岸本 治
国土交通省 港湾局 海岸・防災課 津波対策企画調整官 邊見 充

報告事項

06 「第28回海岸シンポジウム」の開催報告

港湾海岸防災協議会

10 令和6年 港湾関係災害復旧事業について

国土交通省 港湾局 海岸・防災課 災害査定官 早川 修

12 福良港津波防災インフラ整備事業について

兵庫県土木部港湾課

TOPICS

14 「港の風景」写真コンテスト2024

22 称えよう、その功績。「2024年濱口梧陵国際賞」

国土交通省 港湾局 海岸・防災課 災害対策室 課長補佐 川原 洋

24 海外の高校生が八代港で緊急支援物資輸送を体験

国土交通省 九州地方整備局 港湾空港部 港湾空港防災・危機管理課

26 日本最高峰のビーチスポーツ大会が集結！ 「ジャパンビーチゲームズ須磨」

NPO法人日本ビーチ文化振興協会 代表理事 佐伯 美香

全国海岸リレー紹介

30 北海道／東北／関東／北陸／中部／近畿／中国／四国／九州／沖縄

データで見る海岸・防災

36 人口・資産が高度に集積する港湾海岸

38 「水際・防災対策連絡会議」の開催実績

ビーチライフ

40 世界から選ばれるリゾートアイランドを目指して

沖縄市建設部東部海浜開発局

連載コラム

44 グルメ紀行 呉市

呉市産業部港湾漁港課観光振興課

48 私と海岸 海と天使たちの2024

愛知県約リインストラクター連絡機構 顧問 大田 豊明

和倉温泉の生業(なりわい)の再開に向けた護岸復旧の取り組み

国土交通省北陸地方整備局能登港湾空港復興推進室長 美野 智彦

令和6年1月1日16時10分頃に発生した「令和6年能登半島地震」では、能登地方で最大震度7、北陸地方整備局管内29港湾全てで震度4以上を観測し、広範囲にわたる液状化被害、能登半島東側での津波発生、能登半島北部の地盤隆起などにより、22港湾において被害が発生しました。和倉港においても、背後の和倉温泉の宿泊施設やその周辺の護岸等に甚大な被害が発生しました(写真1～4参照)。

大規模災害からの復興に関する法律に基づき、七尾市の要請を受け、2月1日に、七尾市所有の公共護岸を北陸地方整備局が復旧することが決定されました。

復旧にあたり、宿泊施設に近接した護岸の倒壊やはらみ出し等により侵食進行が懸念されたことから、7月1日迄に、被害拡大防止のための防砂シート及び土のう設置による応急復旧を実施しました(石川県による応急復旧箇所含む、写真5～7参照)。

和倉温泉周辺の護岸延長は約3.5kmあり、七尾市や石川県、民間の所有者が入り交じり、かつ、関係者が多数だったことから、護岸の復旧方針を検討するため、各宿泊施設や行政機関等が参画する「和倉温泉護岸復旧会議」を5月13日に設置しました。検討に当たっては、護岸の復旧方法に関する各宿泊施設の意向を丁寧に汲み取るため、個別にヒ



写真1 被災状況① (護岸傾斜)



写真2 被災状況② (護岸傾斜)



写真3 被災状況③ (護岸崩壊及び傾斜)



写真4 被災状況④ (護岸崩壊)



写真5 応急復旧状況① (土のう設置)



写真6 応急復旧状況② (土のう設置完了)



写真7 応急復旧状況③ (土のう設置完了)

アリングを行いました。それを踏まえ、当該会議において、復旧方法や留意点等を提示しながら、3回にわたり議論を行い、9月26日に護岸復旧方針をとりまとめました(図1参照)。具体的には、宿泊施設と護岸が近接していることから、海側に仮設道路を整備することで、海側からの護岸の復旧工事と宿泊施設の復旧工事を同時に進めることを可能とし、和倉温泉全体の復旧期間を可能な限り短縮するとともに、眺望に配慮し、可能な限り護岸の高さを変えずに復旧することとしています。また、天然石の石積み構造とした仮設道路を護岸構造の一部として活用し、魚が生息しやすい海洋環境の構築に貢献するとともに、復旧した護岸を藻場造成の場として活用することで、水産振興にも寄与するものとしています。なお、宿泊施設も復旧する必要がある旅館の意向も踏まえ、民有護岸を七尾市又は石川県に公有化し、図2の整備主体により再整備することとしています。

この護岸復旧方針に基づき、必要な手続きを進め、護岸の本格復旧工事について、12月20日に3箇所の作業ヤード(図2参照)で施工を開始し、全面着工しました(写真8~10参照)。引き続き、背後にある旅館の再建と歩調を合わせつつ、令和

8年度中を目途に可能な限り早期の完成を目指して工事を行い、和倉温

泉の生業の再開に向けて取り組んで参ります。

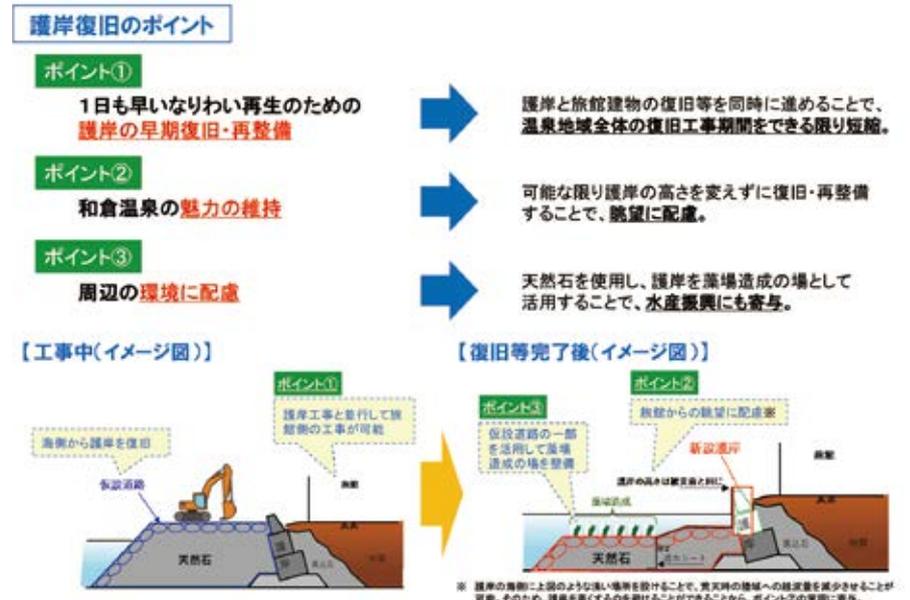


図1 和倉温泉 護岸復旧方針 概要



図2 位置図と護岸復旧の整備主体



写真8 碎石搬入(作業ヤード①)



写真9 舗装撤去(作業ヤード②)



写真10 捨石搬入(作業ヤード③)

令和7年度当初港湾・海岸関係予算(案)について

国土交通省港湾局計画課 課長補佐 岸本 治

国土交通省港湾局海岸・防災課 津波対策企画調整官 邊見 充

1. はじめに

令和7年度港湾局関係予算においては、『持続的な経済成長の実現』、『国民の安全・安心の確保』、『地方創生2.0に資する個性をいかした地域づくりと分散型国づくり』を3本柱としています。

予算の規模としては、港湾整備事業で2,456億円(国費。対前年度比1.00倍)、港湾海岸事業で152億円(国費。対前年度比1.00倍)、災害復旧事業等で14億円(国費。対前年度比1.00倍)となっています。港湾関係非公共预算としては、国際戦略港湾競争力

強化実証事業等で26億円を計上しています。

2. 持続的な経済成長の実現

持続的な経済成長の実現のため、港湾の国際競争力強化や、DX・GXなどを原動力とする生産性向上・機能強化に取り組みます。

このため、国際コンテナ戦略港湾を中核とした強靱なサプライチェーンの構築や、港湾を取り巻く様々な情報の有機的な連携を実現するサイバーポートの構築を強力に推進するとともに、カーボンニュートラルポート

(CNP)の形成、洋上風力発電の導入促進、サーキュラーエコノミーへの移行に向けた港湾を核とする物流システムの検討を行い、港湾機能の強化を通じた我が国経済の持続的な成長を支える基盤づくりを進めます。

また、トラックドライバー不足や「物流の2024年問題」に伴い増大する国内物流ニーズを安定的に支える内航フェリー・RORO輸送網の構築・機能強化、クルーズの再興と世界に誇るクルーズの拠点形成に向けた受入環境整備を進めます。

<令和7年度港湾局関係予算の規模>

| 事業区分 | 令和6年度補正・令和7年度 | | | | | 前年度 | | |
|------|---------------------|---------|---------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 合計 | 対前年度倍率 | 令和6年度補正 | 令和7年度 | 対前年度倍率 | | | |
| | | | (B) | (C) | | | (C/D) | |
| | | (A=B+C) | (A/D) | | (C/D) | (D) | | |
| 公共 | 港湾整備事業 | 事業費 | 3,735 | 1.30 | 1,014 | 2,721 | 0.95 | 2,863 |
| | | 国費 | 3,385 | 1.38 | 929 | 2,456 | 1.00 | 2,449 |
| | 港湾海岸事業 | 事業費 | 307 | 1.59 | 114 | 193 | 1.00 | 193 |
| | | 国費 | 249 | 1.64 | 97 | 152 | 1.00 | 152 |
| | 災害復旧事業等 | 事業費 | 83 | 4.94 | 65 | 17 | 1.04 | 17 |
| | | 国費 | 70 | 4.96 | 56 | 14 | 1.00 | 14 |
| | 合計 | 事業費 | 4,125 | 1.34 | 1,193 | 2,932 | 0.95 | 3,073 |
| | | 国費 | 3,704 | 1.42 | 1,081 | 2,622 | 1.00 | 2,615 |
| 非公共 | 国際戦略強化実証事業等 | 国費 | 9 | 0.95 | 1 | 8 | 0.82 | 10 |
| | 港湾におけるカーボンニュートラルの実現 | 国費 | 8 | 1.15 | 0.4 | 7 | 1.09 | 7 |
| | 次世代高規格の形成に必要な経費 | 国費 | 0.8 | 皆増 | 0.8 | 0 | - | 0 |
| | 港湾サイバーセキュリティ強化 | 国費 | 0.8 | 皆増 | 0.8 | 0 | - | 0 |
| | 物流システム強化 | 国費 | 0.1 | 皆増 | 0.1 | 0 | - | 0 |
| | 合計 | 国費 | 11 | 0.97 | 0 | 11 | 0.97 | 11 |
| | 合計 | 国費 | 30 | 1.07 | 3 | 26 | 0.95 | 28 |
| 総合計 | 国費 | 3,733 | 1.41 | 1,085 | 2,649 | 1.00 | 2,643 | |

注1) 上記には内閣府分(沖縄関連)を含む。

2) 本表のほか、港湾局に関する令和7年度予算には以下がある。

- ① 東日本大震災復興特別会計に計上する復旧・復興事業(港湾:13千円)(国費)
- ② 受託工事費(港湾:6億円)(国費)
- ③ 社会资本整備総合交付金(4,874億円)の内数及び防災・安全交付金(8,470億円)の内数(いずれも国費)
- ④ 新しい地方経済・生活環境創生交付金(2,000億円)の内数(国費)
- ⑤ 国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所における運営費交付金(53億円)の内数及び施設整備費補助金(1億円)(いずれも国費)
- ⑥ 港湾関係起債事業の事業費見込み額(872億円)
- ⑦ デジタル庁一括計上システムにかかる経費(10億円)(国費)
- ⑧ 国際観光旅客税財源観光振興費(490億円)の内数(国費)

3) 国民保護・総合的な防衛体制の強化等に資する公共インフラ整備については港湾整備事業の内数となる。

4) 合計は四捨五入の関係で一致しない場合がある。

3. 国民の安全・安心の確保

令和6年能登半島地震も踏まえつつ、激甚化・頻発化する風水害や切迫する大規模地震等に屈しない強靱な国土づくりを推進するため、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を含むハード・ソフト一体となった総合的な防災・減災対策を重点的かつ集中的に講じます。

このため、海上交通ネットワークの拠点であり、背後に産業・人口が集積している港湾において、高潮・高波・地震・津波等への対策、国土強靱化施策を効率的に進めるためのDXの加速、予防保全型インフラメンテナンスへの転換に向けた老朽化対策や将来の維持管理コストも考慮に入れた戦略的なアセットマネジメント等を着実に推進するとともに、気候変動を考慮した臨海部の強靱化を推進します。

また、令和4年12月に閣議決定された国家安全保障戦略等に基づく国民保護・総合的な防衛体制の強化等に資する公共インフラ整備(港湾)に取り組むとともに、港湾におけるサイバーセキュリティ対策の強化を図ります。

4. 地方創生2.0に資する個性をいかした地域づくりと分散型国づくり

地方の暮らしや経済成長を支え、地域の個性をいかしながら地方を活性化する分散型国づくりを推進します。

このため、地域の基幹産業の競争力強化や民間投資の誘発等に資する港湾機能の強化とともに、国際バルク戦略港湾において資源・エネルギー・食糧の安定確保に向けた取組を推進

するほか、農林水産物・食品の輸出にチャレンジする事業者の投資を促進するための産地と港湾の連携による輸出促進に取り組みます。

また、離島における航路の就航率向上、人流・物流の安全確保、バリアフリー化等を推進し、住民生活の安定の確保、住民の交流や観光の振興による地域活性化など多様なニーズに対応します。

5. 国土交通省港湾局海岸関係予算の概要

令和7年度においては、南海トラフ地震、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震などの切迫性の高い地震・津波災害や激甚化・頻発化する高潮・高波災害等からの背後地の防護を目的とした海岸保全施設の整備を推進

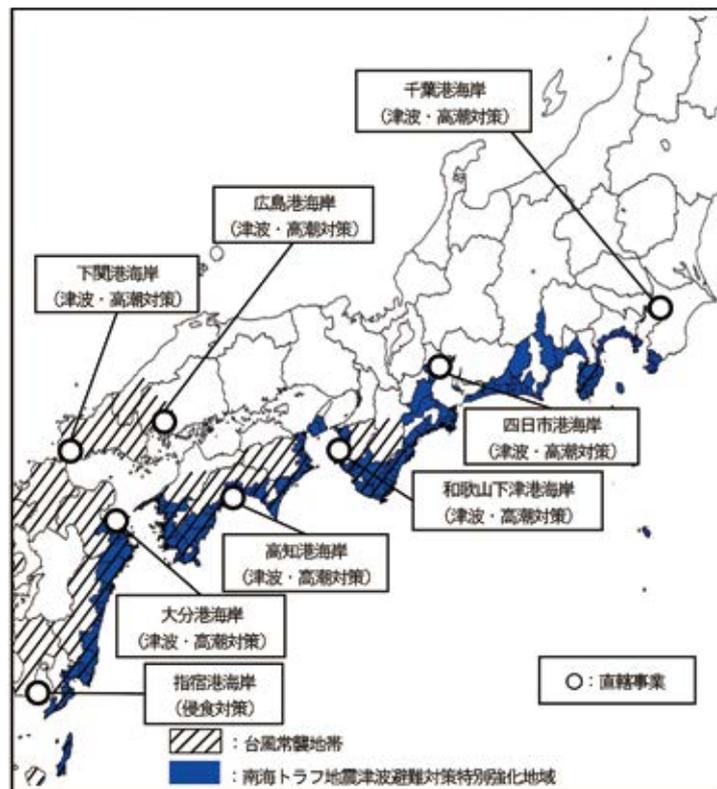
するため、港湾海岸関係予算として、152億円(国費)を計上しています。

また、令和6年度補正予算においては、災害の激甚化・頻発化に対応するため、海岸保全施設の地震・津波、高潮・高波対策を実施し、ハード・ソフト一体の事前防災対策を推進するとともに、予防保全型インフラメンテナンスへの転換を図り、港湾海岸において早期に対策が必要な施設の修繕等を集中的に実施するため、97億円(国費)を計上しています。

このほか、令和7年度予算、令和6年度補正予算において社会資本整備総合交付金、防災・安全交付金を計上しています。

これら令和7年度予算と令和6年度補正予算を合わせて切れ目なく取組を進め、施策効果の早期実現を図ります。

<直轄海岸保全施設整備事業実施箇所(令和6年度時点)>



「第28回海岸シンポジウム」の開催報告

港湾海岸防災協議会

全国海岸事業促進連合協議会では、より良い海岸空間の保全と創造に向けて、民間団体や学識経験者を含む様々な分野の方々のご意見を拝聴し、時代の要請に適合した海岸の整備や保全の一助とするため、平成9年以降「海岸シンポジウム」を開催してまいりました。

本年度においても、国土交通省及び農林水産省のご後援を頂き、令和6年11月28日(木)(13:00-16:00)に東京都千代田区永田町星稜会館ホールにて、第28回海岸シンポジウム『津波防災のハード・ソフト対策』を開催し、日本全国から海岸管理者、関係市町村、コンサルタント企業等の方々にご参加いただきました。

また、昨年度に続き、今回のシンポジウムでもインターネット配信を行いました。

開会に先立ち、全国海岸事業促進連合協議会 いそべ まさひこ 磯部 雅彦 会長から、2011年の東日本大震災を契機に全ての災害を抑え込むことは難しいので、ハードとソフトを組み合わせることで対策行っていく減災の概念が確立され、防災のレベルを、レベル1、レベル2に分けて対策を行うことが浸透してきているものと認識している。その後、今年1月の能登半島地震もあり、息つく暇も無く災害に襲われている

状況であるが、現在の災害対策が浸透し、強靱でしかも柔軟性のある防災対策ができるようになったのではないかと考えている。今回の講演を契機に、津波防災のハード・ソフト対策について議論のきっかけになるといいと感じており、事例紹介を通じて色々なことを知って学んでいただく機会にしたい旨の挨拶がありました。



いそべ まさひこ
磯部 雅彦 様
(高知工科大学 学長)

本年度はプログラムを2部構成とし、第1部は能登半島地震津波につ

いて2名の方に講演いただきました。まずは、金沢大学理工研究域地球社会基盤学系 ゆひ まさとし 由比 政年 教授より、『能登半島地震津波の現地調査報告』と題し、ご講演いただきました。

まず、日本海の過去の地震の津波と能登半島の特徴についてご紹介がありました。日本海では15年に1度のペースで津波が発生しており、日本海沿岸に襲った津波エネルギーは日本全体に襲った津波エネルギーの約4分の1を占めていることや、過去の津波も能登半島北方には周囲と比較して水深の浅い領域が広がっており、波の屈折・集中により能登半島北部へ波のエネルギーが集中する傾向にあること、また能登半島は半島の西側(外浦)、東側(内浦)で冬季風浪による影響が異なり、波に対する防護の考え方も異なっている点について触れられ、外浦は施設高が高



く、内浦は施設高が低い旨、ご説明頂きました。

次に、能登半島地震について地震や津波の概要についてご説明がありました。地震発生後速やかに津波による被害の現地調査について、土木学会海岸工学委員会合同調査グループが結成されたことや津波の特徴について、震源が能登半島直近であったため、津波が早く到達したことや震源直近以外でも地形の影響により速く津波が到達したことから、迅速な避難が必要であること、また複雑な海底地形の影響を受け、地点により特性の異なる(姿形の異なる)津波が発生しているところ、地形条件の理解・把握が重要である旨ご説明頂きました。

まとめとして、浸水の程度は津波の高さとそれに対する防護力との相対的なバランスや背後域の利用形態で決まってくること、被害の特徴として波に対する防護力の考え方と津波の高さが逆であったため、被害に差がでたこと、人的被害が少なかったことをあげられ、断層付近では地殻変動が大きいことから今後の予測についてどう考慮していくのか検討の必要性があることご説明頂きました。



ゆ ひ まさとし
由比 政年 様
(金沢大学理工研究域地球社会
基盤学系教授)



続いて、水産庁漁港漁場整備部事業課能登半島地震災害復旧直轄代行チームの西村 裕毅 漁港漁場専門官より『能登半島地震津波被害からの復旧・復興支援』と題し、ご講演頂きました。

まずは、能登半島地震における漁港の被害の概要をご説明頂き、水産庁の初動対応として職員を派遣し、関係団体等と連携して被災状況を把握したこと、漁港の復旧・復興の考え方について地域の実情を踏まえて仮復旧や本復旧を実施した旨、ご説明頂きました。

また、大規模災害復興法に基づく代行工事について根拠条文や実施内容について触れられ、体制の強化として水産庁直轄代行チームが設置され直轄代行による工事発注、監督、検査等について専属要員を配置したことや全国の都道府県等から技術職員を派遣したことをご紹介頂きました。

その他、石川県が能登の水産関係

港の復興に向けた協議会・分科会を設置したことや、水産庁が令和6年能登半島地震漁業地域復旧・復興技術検討会を設置し、漁港の復旧・復興に向けて動いていることをご紹介頂きました。

今後の対応として直轄代行工事の見通しをご説明いただき、最後に能登半島地震での気づきと検討課題を踏まえ、今後に繋げていきたいとまとめられました。



にしむら ひろき
西村 裕毅 様
(水産庁事業課直轄代行チーム
漁港漁場専門官)

第2部は津波防災のハード・ソフト対策について3名の方に講演頂きま



した。まずは、高知県土木部港湾・
海岸課 おかもと みちのぶ 岡本 通伸 課長より、
『高知県の海岸事業について』と題し、ご講演いただきました。

高知県の海岸の概要について触れられた後、3箇所の海岸事業について事例紹介いただきました。1つ目は宇佐漁港海岸について事業概要をご説明頂いた後、対策の考え方として地震による地盤沈下が起きたとしてもL1津波の高さに耐えられる高さを計画の上、事業を実施していることや、地区ごとに行っている事業内容の詳細についてご紹介頂き、地元住民との話し合いにより段階的に整備しているところもある旨、ご説明がありました。

2つ目は高知港海岸について事業概要をご説明頂いた後、対策の考え方として3ラインでの対策による三重防護の方針で整備しており、L1津波に対しては堤内地の浸水を防護し、L2津波に対しては浸水範囲及び浸水深を減少させるとともに、浸水するまでの時間を遅らせることで対応していることや国と県の整備における役割分担、整備状況についてご説明がありました。

3つ目は宿毛市の海岸（新田海岸・宿毛湾港海岸・大深浦海岸・大島漁港海岸）について事業概要をご説明頂いた後、対策の考え方として長期



おかもと みちのぶ
岡本 通伸 様
(高知県土木部港湾・海岸課長)

浸水を抑制するため堤防の嵩上げ、補強、液状化対策を行っていることや、地震による地盤沈下があったとしても満潮時の海水面より堤防高を高くする対策を行っている旨、ご説明がありました。

2人目は、気仙沼市ガス上下水道部 すがわら まさひろ 菅原 正浩 部長より、『津波防災地域づくりについて』と題し、ご講演頂きました。

まずは東日本大震災の被害状況を大谷海岸含めご紹介頂き、当初の復旧計画はわずかに残る砂浜の上に防潮堤を建てるため、砂浜を全て埋め立てる計画であったものの、地域の住民から計画の一時停止と住民意見の反映を求める署名活動がなされたことや、各自治会が作成した震災復興計画において砂浜を残す意思決定がなされ気仙沼市長に提出されたこと、大谷まちづくり勉強会や大谷里海づくり検討委員会の活動において、まちづくりの形のイラストと要望書が提出されるなど、大谷海岸を残す活動がなされたことがご紹介されました。





気仙沼市が住民の意向を計画に反映させるため国や県と協議する動きがマスコミやSNSで話題を呼び、やがて大谷海岸関係者会議が立ち上がり検討の結果、当初と異なり防潮堤をセットバックし、国道及び背後地を嵩上げすることで砂浜を復旧させる計画となり、各自治会及び地域住民が同意する等、砂浜を残す形で大谷海岸が復旧された経緯をご説明されました。

最後に、防潮堤を作る、作らないといった二者択一を超えた第3の選択肢を選ぶことができた要因として地域のアイデンティティである砂浜を守りたかった意思、信頼関係の構築や共通する想いの積み重ね、関係機関の連携を挙げられました。



すがわら まさひろ
菅原 正浩 様
(気仙沼市ガス上下水道部長)

3人目は、認定特定非営利活動法人桜ライン311 おかもと しょうま 岡本 翔馬 代表理事より、『東日本大震災の記憶の継承について-17,000本の桜に託す願い-』と題し、ご講演頂きました。

まず、講演者ご本人のご経歴として東日本大震災の際は東北を離れ、東京都に勤務していたところから始まり、震災直後は故郷である陸前高田市に戻りあらゆる緊急支援を実施されたこと、NPO法人を設立するまでの想いやNPO経営者として長期的に事業継続可能なものであること、職業として成り立つものであること、対日本・対世界で価値を生み出されることを目指しNPOを設立した旨、ご説明されました。

次に、岩手県陸前高田市における東日本大震災での被災概要や数字でみる復興の現状についてご説明があり、認定NPO法人桜ライン311の主な活動である桜の植樹事業が、陸前高田市内の津波最大到達地点まで桜を植樹し、17,000本の桜並木をつくることで、東日本大震災の記憶を後世に伝え残すことを目的としていることなど、桜を植える理由や想いについて、地元住民との心温まるエピソード

なども交えご紹介されました。

最後に記憶の継承について防災・減災のための伝承活動は必要と感じている人は多いものの、被災者、未災者共に心理的なハードルが高いため、入口のハードルを下げ主体的に参加してもらうためには様々な参加手法があり、達成できるためにはいろいろな条件があることをご説明頂きました。



おかもと しょうま
岡本 翔馬 様
(認定特定非営利活動法人桜ライン311 代表理事)

最後に磯部会長より、講演・事例紹介の要点をまとめられ、今回のシンポジウムを通して、強靱かつ柔軟な津波防災を向上させる必要がありそれが可能な状況になったと感じていると総括のうえ、閉会しました。

津波防災の推進にあたってはハードだけでなくソフト対策も必要となっており、対策に取り組んでいく上で、大変有意義なものになったのではないかと考えます。

今後とも、海岸事業の推進並びに全国海岸事業促進連合協議会・港湾海岸防災協議会の活動へのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

令和6年 港湾関係災害復旧事業について

国土交通省 港湾局 海岸・防災課 災害査定官 早川 修

1. はじめに

令和6年の港湾関係の災害は、1月1日に発生した能登半島地震から始まり、4月に発生した豊後水道の地震および8月に発生した日向灘の地震、台風第10号などの被害報告がありました。

2. 令和6年の主な災害

1) 能登半島地震

1月1日16時10分に石川県能登地方を震源とするマグニチュード(M)7.6の地震が発生しました。この地震により石川県輪島市や志賀町(しかまち)で最大震度7を観測したほか、北陸地方を中心に北海道から九州地方にかけて震度6弱～1を観測しました。

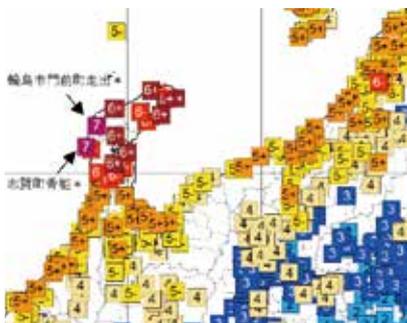


図-1 能登半島地震の震度分布図
観測点名の*印は、気象庁以外の震度観測点を示す。
(出典:気象庁)

今回の地震により、石川県の金沢で80cm、山形県の酒田で0.8m*の津波が観測されるなど、北海道から九州地方にかけて、日本海沿岸を中心に広い範囲で津波が観測されました。

※巨大津波観測計による観測のため、観測単位は0.1m

■石川県港湾の被害

石川県で災害査定を実施した港湾は、金沢港、七尾港、輪島港、宇出津港、穴水港、小木港、飯田港、滝港、福浦港、塩屋港、和倉港、半ノ浦港の12港となります。



図-2 石川県被災港湾箇所図

能登半島地震により各港湾で液状化現象による地盤沈下が起こり、港湾活動に支障をきたすほどの大きな被害が多数の施設で発生しました。



図-3 金沢港 岸壁の被災状況

このため、応急復旧工事を行い、支援物資輸送等の円滑な実施に貢献しつつ、港湾施設の早期復旧に向け取り組んでおります。



図-4 七尾港 岸壁の被災状況



図-5 輪島港 岸壁の応急復旧状況



図-6 宇出津港 臨港道路の被災状況



図-7 穴水港 岸壁の被災状況



図-8 飯田港 防波堤の被災状況



図-9 和倉港 護岸の被災状況

■富山県港湾の被害

富山県で災害査定を実施した港湾は、伏木富山港、魚津港の2港となります。能登半島地震により臨港道路にクラックが発生するなど多大な被害が各施設で発生しました。



図-10 伏木富山港 物揚場の被災状況



図-11 伏木富山港 臨港道路の被災状況

■新潟県・福井県港湾の被害

新潟県で災害査定を実施した港湾は、直江津港、両津港、小木港、柏崎港、赤泊港の5港となります。

また、福井県で災害査定を実施し

た港湾は、福井港の1港となります。

両県の港湾においても、他県と同様に甚大な被害が発生しました。



図-12 直江津港 岸壁の被災状況



図-13 両津港 臨港道路の被災状況



図-14 福井港 臨港道路の被災状況

2) 豊後水道の地震

4月17日23時14分頃に豊後水道を震源とするマグニチュード(M)6.6の地震が発生しました。

この地震により愛媛県宇和島港の岸壁エプロン部が沈下したことで滞水が発生し、一部港湾機能を喪失する被害を受けました。



図-15 宇和島港 岸壁の被災状況

3) 日向灘の地震

8月8日16時43分頃に日向灘を震源とするマグニチュード(M)7.1の地震が発生しました。この地震により鹿児島県志布志港の岸壁エプロンに沈下やひび割れが発生しました。



図-16 志布志港 岸壁の被災状況

4) 台風第10号

8月22日にマリアナ諸島で発生した台風第10号は、27日に非常に強い勢力となって奄美地方に接近しました。その後、進路を北に変えて非常に強い勢力のまま九州南部に接近し、鹿児島県に上陸をしました。上陸後は、遅い速度で勢力を弱めながら九州北部地方や四国地方を通って東海道沖へ進みました。

この台風により、鹿児島県及び静岡県

5) おわりに

能登半島地震により石川県、富山県、新潟県、福井県の港湾施設が甚大な被害を受けたため、約400件の災害査定を実施しました。

被災した港湾施設を復旧するまでは港湾荷役に制約や制限がかかり、港湾ユーザーや地域経済などへの影響も及ぼすことから早急な復旧が急務と考えております。

今後の災害査定ではWeb会議・ドローン映像・三次元データ等のデジタル技術を積極的に採用することで、災害査定の効率化・迅速化にも努めて参ります。

福良港津波防災インフラ整備事業について

兵庫県土木部港湾課

1. はじめに

福良港は、兵庫県最南端の南あわじ市にある地方港湾で、港全体が瀬戸内海国立公園内にある(図-1)。船舶の往来も多く淡路島南部の拠点となる港湾であり、漁業、観光業、造船業等が盛んに行われている。

一方で、南海トラフ巨大地震による津波水位が県内最大であり、レベル1津波に対しても避難を前提とした計画となる。

また、事業実施においては、有識者や地元関係者で構成される「福良港湾口防波堤検討委員会(写真-1)」で議論を重ね、陸域の防潮堤を大きく嵩上げすることは現実的でないことから、湾口防波堤を整備し防潮堤

との多重防護により浸水深の低減を図ることとした。

2. 事業概要・整備目標

湾口防波堤(L=1,100m、整備高T.P.+5.9m)には、2つの開口部(メイン航路、煙島航路)に加え、煙島水門(海底設置型フラップゲート)を

設置し、漁船を含めた船舶航行の安全を確保した。

また、海水交換用の開口部(洲崎水門、既存防波堤水門)をメイン航路の両脇に設置した(図-2)。

なお、津波到達時間が1時間以内と県内でも早い地域であるため、陸域を含む全ての水門・陸閘(全48基)を全国瞬時警報システム(Jア

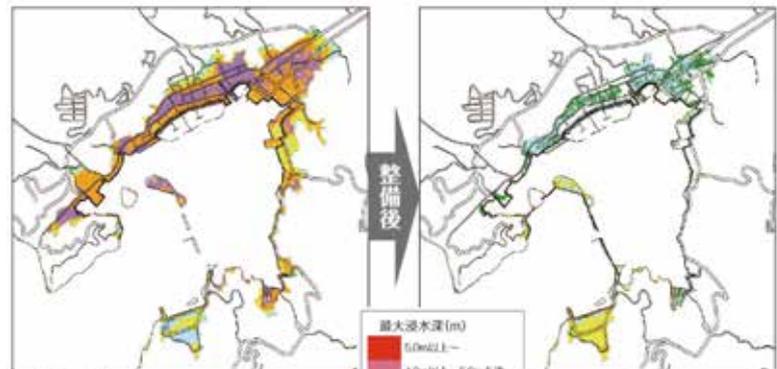


図-1 位置図

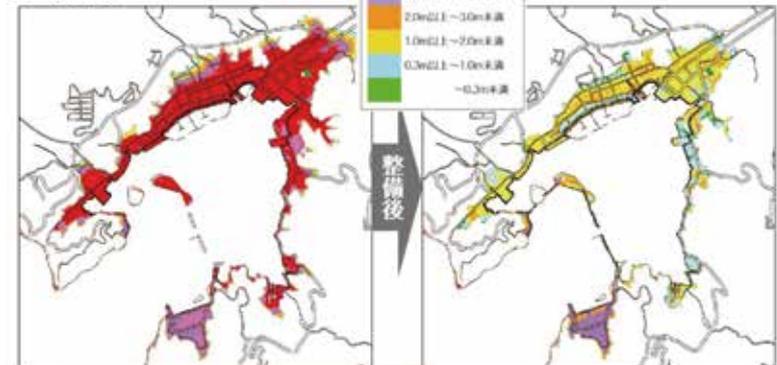


写真-1 福良港湾口防波堤検討委員会

〈レベル1〉



〈レベル2〉



レベル1津波：場内地の浸水面積を約6割削減
人家部の浸水深を概ね1m未満に低減することで木造家屋の全壊を防止。
レベル2津波：場内地の浸水面積を約3割削減

図-3 整備前後の浸水想定図



図-2 湾口防波堤 施設位置図

ラート)と連動し自動閉鎖することで、水門・陸閘の確実な閉鎖と操作者の安全を確保した。

＜整備目標＞

●レベル1津波 (T.P.+5.3m)

→避難を前提に、人家部の浸水深を家屋の全壊を防ぐことができる概ね1m未満に低減し、浸水被害を軽減

●レベル2津波 (T.P.+8.1m)

→浸水深をレベル1津波並に低減し、浸水被害を軽減

3. 整備における課題と対応

○水質環境および漁業への配慮

福良港では、ブランド化に成功した淡路島3年とらふぐ(写真-2)等を養殖しており、湾口防波堤設置による潮流障害で水質の悪化が懸念されたため、水質シミュレーション結果も踏まえ海水交換用の開口部を追加することで、水質の悪化を防止した



写真-2 淡路島3年とらふぐの養殖

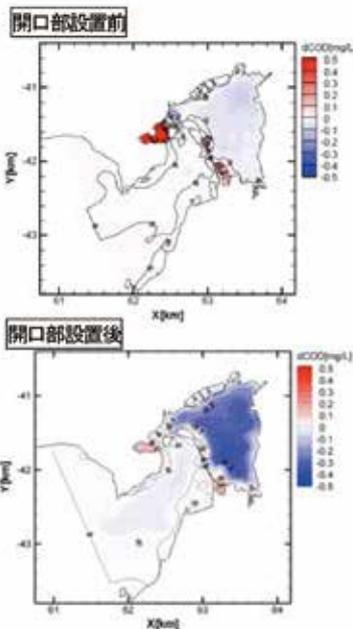


図-4 開口部設置による海水交換効果

(図-4)。さらに、開口部の位置をイワシなどの回遊ルートに合わせており、漁業環境の維持にも配慮している。

また、有識者等へのヒアリングの結果、海底掘削で浮遊した寄生虫等が養殖魚のエラへ付着することで稚魚の「へい死」に繋がる懸念された。このため、寄生虫が生息しにくい5月～10月に施工時期を調整した。さらに、潮流に合わせて施工時間も調整し、懸濁物が堤内へ流入することを防ぐことで、施工中においても養殖魚への影響を最小限に抑えた。

○景観への配慮

防波堤の景観は、瀬戸内海国立公園を所管する環境省とイメージパス等を活用した調整を重ね、景観と調和した巨石積型の化粧型枠を採用した(写真-3)。

また、煙島水門を海底設置型フラップゲート式(図-5)とし、海上部の構造物が小さくなり、大型漁船の航行や景観保全にも配慮した。

○周辺施設への配慮

工事施工中、現場周辺に立地するイルカの飼育施設において、イルカの体調が悪化する事象が発生した。原因究明のため音圧測定の上、有識者へヒアリングした結果、騒音によるストレスが指摘された。



写真-3 巨石積型の化粧型枠

よって、飼育記録と施工状況の共有を図ったところ、騒音を発生させる特定の工種とイルカの体調不良に一定の相関が見られたため、該当工種の施工時間については、食事の時間を避ける等配慮した。

これに加え、汚濁防止フェンスの2重化など音・振動の伝播抑制を実施したことで、状況が改善した。

○航路切り替え等の安全対策

福良港の利用は多岐にわたり、かつ定期的に船舶が航行している。このため、施工中の船舶航行や航路の切替における安全確保のため、港湾利用者からなる安全協議会で常に情報を共有し、ホームページ等でも航路状況等を周知した。さらに、航路にカメラを設置し状況を監視・周知することで航行船舶の安全を確保した。これにより、3度の大きな航路切替があったが事故なく安全に施工を完了できた。

4. おわりに

令和6年11月4日に完成式典を行い、地元関係者等多くの人で賑わった(写真-4)。本事業は、計画段階から多様なご意見をいただき、事業中も多くの関係者のご協力により完成することができましたことを改めて厚くお礼申し上げます。



写真-4 福良港津波防災インフラ完成式典

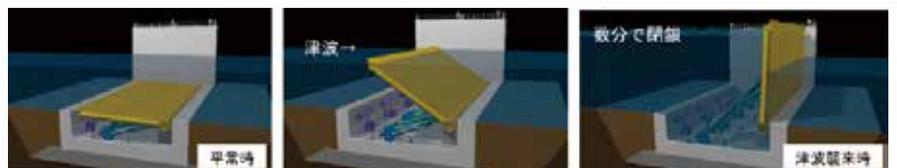


図-5 海底設置型フラップゲートの閉鎖状況(イメージパス)

港の風景

写真コンテスト 2024

本コンテストは、写真を通じて津々浦々の港や海辺の四季折々の姿を表現していただき、
ともすれば港と疎遠になりがちな方々に対してその魅力を再認識していただくと共に、
ウォーターフロントへの関心を高めていただくことを目的としています。
今年で33回目の本コンテストには、584点の応募がありました。いただいた作品に対して
令和6年10月10日に厳正なる審査を行った結果、次のとおり入選作品を決定いたしました。

総 評

本コンテストの対象となる被写体はほとんどが屋外。昨年よりもレベルが上がったかのような酷暑の影響がかなり出るのではと思われましたが、通年の作品募集のためか、マイナスの傾向は見られませんでした。ただ、夜間に撮影した作品が多かったのは、その影響かも知れません。それにはまた、デジタルカメラならではの機能が関係しているようです。

もともと夕方から夜にかけては光の変化が美しく、風景写真ではゴールデンタイム。高感度撮影が得意、暗部の描写に優れているという基本的なデジカメの性能に加えて、星や花火などの専用ともいえる撮影モードが搭載され、光を的確に描けるようになりました。その能力は肉眼以上、それが作画にうまく生かされています。

また理由は分かりませんが、高所からの俯瞰撮影がやや目立ちました。日常の当たり前の視点に対する展望台から見渡す風景の新鮮な感動。俯瞰撮影の魅力で新たな作品を、ということでしょうか。

テーマ限定のコンテストなので似たような作品が多くなりがちですが、実は作品内容は徐々に確実に変化しています。王道で行くか、新しい被写体や写し方を試すか、来年も楽しい作品の応募を期待しています。



最優秀賞 国土交通大臣賞

藤井昭浩 下田港

ミッドナイト

都会とはまた違った光にあふれた夜景がとても新鮮です。下田港の南西部にある お茶ヶ崎展望台から見下ろした景色でしょうか。右下に見えるのは和歌ノ浦、その後ろは赤根島、太平洋のようです。かなりの距離感ですが、それでも画面の下半分。下田海中水族館のアクアドームペリー号から漏れる光、沖の漁火とその反映。そして画面の上半分を埋めつくす星々の輝き。デジタルカメラの機能を生かし、人間の視覚を超える映像を生み出しました。



国土交通省港湾局長賞

中村光雄 和歌山下津港

護岸工事

大規模な港湾の工事が、シンプルにダイナミックに描かれています。広い範囲にまたがる和歌山下津港のどこかで行われていた工事。扱う部材が大きく重過ぎるので人手介入の余地なし、といった工事の様子が描かれています。主被写体となるのは、赤と白の塗色が快晴の青空に映えて美しい巨大なクレーン。重そうなケーソンを吊り下げて傾いだように見える姿形に臨場感が。作業を見守る人々も、広い海のスペースを埋める添景として効果的です。



(公社)日本港湾協会会長賞

佐知浩幸 白杵港

みんなで社会見学

小さな子供たちの白杵港社会見学。お揃いの服に麦わら帽の園児？児童？の側にはガイドさん、引率の先生、ヘルメット姿の造船所の方と揃った前景。その奥には、大型クレーンと進水式間近らしい船体。臨場感のある群像スナップとして生き生きと描かれていますが、背景がとても印象的です。特殊な液体化学製品専用のケミカルタンカーの独特な形と、塗装したばかりの鮮やかな朱色の船体が、雲一つない青空に映えて浮かび上がっています。



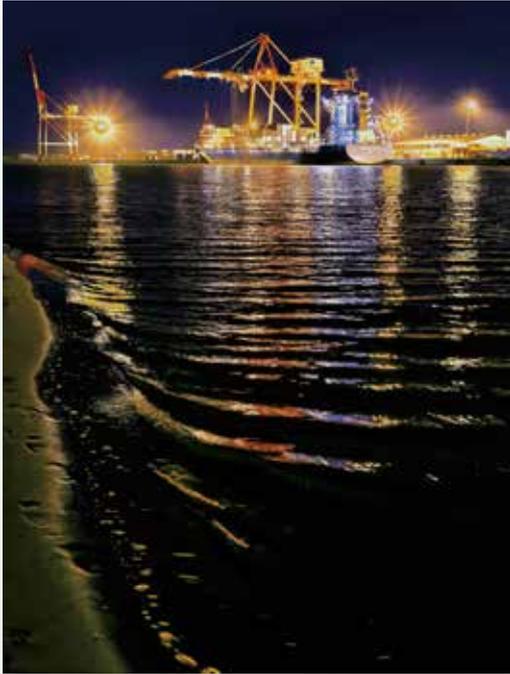
港湾海岸防災協議会会長賞

小森一美 月島川水門(東京港)

静かなる月島川水門

前回、東雲水門の作品が優秀賞でしたが、今回はより上位に入賞です。勝鬃橋の近く、月島川と隅田川を隔てる月島川水門。隅田川テラスを通れば間近に見られますが、受賞作は西仲橋側からの撮影。都会の運河の風景を過不足なく切り取っていますが、デジタルカメラならではの独特な描写モードが活かされています。夜間ではなく明かりが灯る頃を選び、イラスト風のエッジの利いた描写とすることで、その光、薄暮の情景が見事に表現されました。

部門賞



部門賞「みなとの活動」

小形俊幸 新潟東港

水面の輝き

コンテナターミナルのある西埠頭の夜間作業風景でしょうか。タイトルどおり、光の反映が波のように寄せている足元までフレーミングしたことで、新鮮な画面となりました。強烈な夜間照明が海面に反映して美しい光の帯に見える風景は、これまでも今回も数多く応募されていますが、ひと工夫加えたことが受賞に繋がりました。



部門賞「防災」

新居輝雄 四日市港

出初式

四日市市消防出初式のアトラクションの中の一斉放水訓練の様子でしょうか。四日市コンビナートを背景に放水する海上保安庁の巡視艇「あおたき」が主被写体として描かれています。広く状況を写すのではなく、美しく端正な新造艇を主被写体にすることで、快晴の青空の下、盛大に行われたであろう一斉放水をイメージできます。

部門賞「賑わい」

平野昌子 横浜港

シーサイドウェディング

横浜港大さん橋の屋上広場、ウッドデッキが会場となった結婚式。出席者の祝福の中、新婦が赤いウェディングロードを歩き出そうとする瞬間が高所から俯瞰されています。結婚式が主題とすれば一見散漫に見える画面ですが、作者の狙いはこの空間そのもの。なぜか赤い衣装が目立つ、港の幸せなひとときが記録できました。

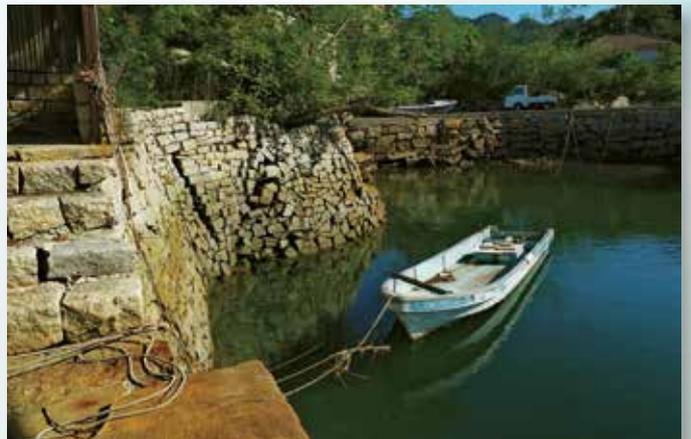


部門賞「自然・歴史」

稲葉太郎 北木島

のどかな日

かつて、瀬戸内の三大銘石「北木石」の産地として栄えたという北木島の一隅。これは小さな入江なのでしょう。何気ない水辺の光景なのですが、船着場の階段や、やや乱れた石積み岸、一艘だけ舫った小舟、深い水の色、音の消えたような空気感までが、地名から連想するイメージに相応しい佇まいに思えてきます。



優秀賞



小城原淳 横浜港
港の彩華

25分間に2万発の花火を打ち上げるという「みなとみらいスマートフェスティバル」の夜の賑わいが、シャープな描写で表現されています。コスモワールドの大観覧車や半月形のホテルといった「らしい」ランドマークに花火を重ね合わせた構成が見事。手前の見物客の「暗さ」と密度が花火大会を引き立てています。



山口正明 野島漁港
大夜泳開始

「白浜海女まつり」のハイライト「海女の大夜泳」。わずかな照明によって白衣を黄赤色に染めた海女たちの姿が、高感度による望遠撮影によって的確に切り取られています。順番に姿勢を低くしつつ海に入っていく海女たちの姿、それぞれの表情がまるで絵画のように重厚にドラマチックに表現されました。



有田勉 宮古港
大きくなって戻ってきて

子供達が主体の放流行事の一コマでしょうか、撮影者が水に入って被写体と向かい合ったことが最大の成功要因でしょう。臨場感にあふれたスナップとなりました。さらに十分接近したことで、バケツを持つ子、見守る人の表情が大きくはっきりと描写できました。また、魚の流れ出すタイミングを的確に捉えています。

工藤嘉晃 神戸港

空と海が見守る港の一日

埠頭を俯瞰・遠望する風景ですが、港の一部が主役ではなく『或る日の神戸港』というイメージが表現されています。この作品で一番特長的なのは、淡くてフラットな青味がかったプリントの仕上がりでしょう。タイトルどおりの海と空、特に帯のように画面上部を覆う雲が脇役としてその印象を助長しています。



川崎信義 佐世保港
港の明かり

海上自衛隊の基地もある佐世保港に、13万6千トンのクルーズ客船「アドラ・マジック・シティ」が入港。その華やかな光が賑わいを感じさせる港の夜景を、高所からの俯瞰撮影によって程よくフレーミング。この撮影位置を選んだことと、画面全体をブルー基調にしたことで、街・港・客船の灯りが強調できました。



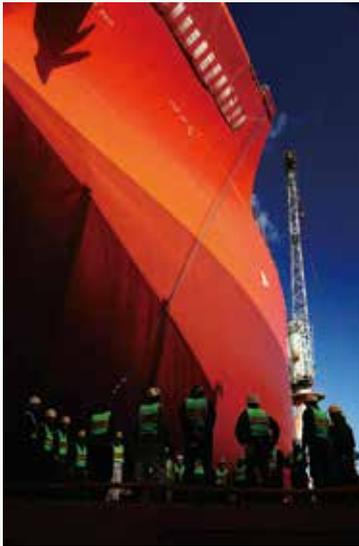
入選

入選

西山昌敏
シャーンシの倒立



松田裕次
男たちのLast Meeting



中川雄喜
黄昏のフェリー港



林正和
晴天の港大橋



成岡勲
クルーズ船出港



小池基夫
コンテナターミナル景



古川佐代美
進水作業完了



小城原淳
出航を待つ



長谷薫
歓迎、しばしお待ち下さい



原裕延
富士を望む港



山口健一
港の力持ち

宇田川憲一
着岸準備中



堀内勇
日本のアマルフィ

長友逸郎
空からの港



道信タケオ
都市の漁港

柳堀利和
港で盆踊り



端雅利
消防ページェント

石山正昭
夕暮れ時



藤田文子
歴史ロマンを感じて

入選

西山栄
砂の芸術を囲んで



雪江博
花咲く港



大島正美
港のクリスマス



柴田康彦
よいしょ!!



山崎泰
世界遺産になった
金積み出し港



河野サエ子
海を渡るみこし



戸崎安司
夜明けの漁



山本健太郎
華やかに



宮本健吾
湾を染める大輪



浅田久
仕事を終え停泊中

早川幸夫
歓迎式典



有田勉
網洗い



竹下邦茂
コンテナヤードの華



明野敏行
干しタコづくり



国土交通大臣賞

藤井昭浩「ミッドナイト」(下田港)[静岡県]

国土交通省港湾局長賞

中村光雄「護岸工事」(和歌山下津港)

日本港湾協会会長賞

佐知浩幸「みんなで社会見学」(白杵港)[大分県]

港湾海岸防災協議会会長賞

小森一美「静かなる月島川水門」
(月島川水門(東京港))

部門賞「みなとの活動」

小形俊幸「水面の輝き」(新潟東港)

部門賞「防災」

新居輝雄「出初式」(四日市港)

部門賞「賑わい」

平野昌子「シーサイドウェディング」(横浜港)

部門賞「自然・歴史」

稲葉太郎「のどかな日」(北木島)[岡山県]

優秀賞

小城原淳「港の彩華」(横浜港)
工藤嘉晃「空と海が見守る港の一日」(神戸港)
山口正明「大夜泳開始」(野島漁港)[和歌山県]
川崎信義「港の明かり」(佐世保港)
有田勉「大きくなって戻ってきて」(宮古港)

入選

西山昌敏「シャースの倒立」(横浜港)
松田裕次「男たちのLastMeeting」
(白杵港)[大分県]
中川雄喜「黄昏のフェリー港」(八幡浜港)
成岡勲「クルーズ船出港」(清水港)
小池基夫「コンテナターミナル景」
(東京港)
古川佐代美「進水作業完了」(博多港)
小城原淳「出航を待つ」(横浜港)
林正和「晴天の港大橋」(大阪港)
原裕延「富士を望む港」(横浜港)
宇田川憲一「着岸準備中」(東京港)
長友逸郎「空からの港」(神戸港)
長谷薫「歓迎、しばしお待ち下さい」
(和歌山下津港)
山口健一「港の力持ち」(函館港)
堀内勇「日本のアマルフィ」
(雑賀崎漁港)[和歌山県]
道信タケオ「都市の漁港」
(東京都中央区佃)
柳堀利和「港で盆踊り」(釧路港)
石山正昭「夕暮れ時」(今治港)

西山栄「砂の芸術を囲んで」
(勿来海岸)[福島県]
雪江博「花咲く港」(横浜港)
端雅利「消防ページェント」(東京港)
藤田文字「歴史ロマンを感じて」(小樽運河)
河野サエ子「海を渡るみこし」
(杵島)[山口県]
戸崎安司「夜明けの漁」(木戸浜)[千葉県]
大島正美「港のクリスマス」(横浜港)
宮本健吾「湾を染める大輪」(広島港)
山崎泰「世界遺産になった金積み出し港」
(大間港跡)[新潟県]
早川幸夫「歓迎式典」(名古屋港)
山本健太郎「華やかに」(広島県尾道市因島)
柴田康彦「よいしょ!!」(神戸港)
浅田久「仕事を終え停泊中」(水島港)
有田勉「網洗い」(宮古港)
竹下邦茂「コンテナヤードの華」(大阪港)
明野敏行「干しタコづくり」
(二見港)[兵庫県]

主催

(公社)日本港湾協会
港湾海岸防災協議会

後援

国土交通省

協賛

(一社)日本旅客船協会
(一社)ウォーターフロント協会
(一社)日本外航客船協会
(一社)日本マリーナ・ビーチ協会
(一財)みなと総合研究財団
(一財)港湾空港総合技術センター
富士フィルムイメージングシステムズ(株)

審査員(順不同・敬称略)

齋藤 潮<東京工業大学名誉教授>
廻 洋子<敬愛大学特任教授>
松野正雄<写真家>
逸見 仁<写真家>
西村尚己<写真家>
白井正興<国土交通省港湾局海洋・環境課長>
上原修二<国土交通省港湾局海岸・防災課長>
大脇 崇<(公社)日本港湾協会理事長>

称えよう、その功績。 「2024年濱口梧陵国際賞」

国土交通省 港湾局 海岸・防災課 災害対策室
課長補佐 川原 洋

1. はじめに

日本における津波防災の日である11月5日が、2015年の国連総会で「世界津波の日」として制定されたことを契機に、沿岸防災技術に係る啓発及び普及促進を図るべく、「濱口梧陵国際賞」が国土交通大臣賞として創設されました。賞名は、160年ほど前に、私財を投げうって村人の命を津波から守った紀州の偉人を由来としています。

9回目となる2024年濱口梧陵国際賞表彰式典の概要について紹介します。

2. 受賞者とその功績

濱口梧陵国際賞の式典等、表彰に至るまでの一連の事務は、国土交通省関係の18団体で構成される国際津波・沿岸防災技術啓発事業組織委員会(事務局;国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所)で実施されています。

多くの候補者の中から、国内外の多数の有識者で構成された選考委員会(委員長;河田恵昭 京都大学名誉教授)による審査の結果、2名と1団体が選定されました。

<受賞者の審査結果>

◎高山 知司 博士

(京都大学名誉教授)

高山博士は、我が国の防波堤等の技術基準に「不規則波」を世界に先駆けて取込むほか、「高山法」と呼ばれる静穏度解析手法を確立し広く普及させる等、沿岸波浪研究に大きく貢献されました。また、メキシコやトルコの水理研究所設立における技術協力や留学生指導による海外の技術者育成や、国内外の津波・高潮等の被災地域の現地踏査での指導的役割を果たすほか、津波防災に関する啓蒙書出版等防災教育においても多大なる貢献をされました。

◎ヴァラム・スンダー 博士

(インド工科大学マドラス校名誉教授)

ヴァラム・スンダー博士は、40年以上の長きにわたり研究・教育に従事し、研究論文発表のみならず防波堤や護岸の耐波性能や波浪抑止効果の向上に関する300を超える世界各地での現地プロジェクトに貢献されました。また、2004年12月のインド洋大津波発生直後の調査研究チーム立上げと調査結果を国際津波防災セミナーで発信したほか、IAHR(国際水理環境学会)アジア太平洋部会長を務める等、沿岸防災・津波対策における国際的活動に

大きく貢献されました。

◎メイクウェーブス・ツナミ・コラボレーション (イギリス)

欧州の大学等の技術者、科学者、実務者により構成される連携組織として、20年以上にわたり学際的かつ多角的なアプローチによる、津波に対する沿岸構造物等の設計と評価のための科学的知見と実用的な対応策の開発に貢献されました。また、研究成果は、米国の建築基準への反映や災害保険におけるリスク評価等様々な分野で採用されているほか、2011年の東日本大震災以降は東北大学とも連携する等、防災専門家の人材育成にも大きく貢献されました。

3. 濱口梧陵国際作文コンテスト

より幅広い世代に津波防災の普及・啓発を図るため、濱口梧陵のエピソードを読んで、「考えたこと」「感じたこと」「体験したこと」等を綴った作文を、国内外の高校生から募集しました。2023年から始められた新たな取組で、今回が2回目となります。6カ国から50作品の応募があり、応募作品数は前回は上回りました。濱口梧陵国際作文コンテスト選考委員会による厳正な審査の結

果、優秀賞1作品、入選3作品が選定されました。

<受賞者>

◎優秀賞

プニャキーティ・ラム・モハンさん
(SDVEMHSS, Alappuzha,
Kerala (インド))

◎入選

湯浅 侑那さん
(浜松日体高等学校)
黒川 海空さん
(長崎県立長崎西高等学校)
サジャル・ジェインさん
(AGRA PUBLIC SCHOOL
(インド))

受賞作品は、以下のURL参照。

https://www.pari.go.jp/PDF/r6d_essaycontestwinner_jp_20241025c.pdf

4. 授賞式及び記念講演会

昨年10月30日、東京都千代田区にある海運クラブにおいて、濱口梧陵国際賞、濱口梧陵国際作文コンテスト優秀賞の授賞式が開催され、受賞者のほか、選考委員会の河田恵昭委員長、濱口梧陵翁のご子孫である濱口道雄ヤマサ醤油(株)会長、齊藤鉄夫国土交通大臣等、約120名が出席しました。その後の記念講演会では、冒頭で作文コンテスト優秀賞を受賞したプニャキーティさんより、受賞作を披露していただき、続いて、国際賞受賞者より津波・沿岸防災技術等に関する取り組みについて、講演していただきました。



写真1 表彰楯の授与
(右; 高山博士)
(左; 表彰楯を授与した齊藤大臣)



写真2 国際作文コンテスト表彰楯授与
(右; プニャキーティさん)
(左; 表彰楯を授与した濱口会長)



写真3 ヴアラム・スンダー博士
による記念講演



写真4 メイクウェーブス・ツナミ・
コラボレーションによる記念講演
(左; ティツリアナ・ロゼット博士
右; デビッド・マクガバーン博士)

5. おわりに

津波は、恐ろしい災害です。世界に幅広く事前防災の重要性を認識していただくことは、世界各地で発生する、津波による被害の最小化に大きく貢献するものです。

引き続き、濱口梧陵の名前とともに、レジリエントな世界の構築を進めて参ります。



写真5 記念写真

海外の高校生が八代港で緊急支援物資輸送を体験

国土交通省 九州地方整備局 港湾空港部 港湾空港防災・危機管理課

1. はじめに

11月5日の「世界津波の日」は、2015年の国連総会で日本が提唱し、採択されました。翌2016年からは、世界各国の高校生と日本の高校生が参加し、津波をはじめとする自然災害の脅威や対策を学び、議論するとともに、交流を通じてお互いのきずなを深める「世界津波の日」高校生サミットが開催されています。

本年は、「平成28年熊本地震」や「令和2年7月豪雨」を経験した熊本において、地震や津波などの自然災害による被害を最小化し、国土強靱化を担う将来のリーダーの育成と世界各国の「きずな」を一層深めることを目的に「世界津波の日」2024高校生サミットin熊本が開催されました。また、開催に先立ち、本サミットに参加する海外の高校生

「若き津波防災大使」が、熊本県内の被災地の見学や防災学習、県内各地の高校生との交流を行うスタディツアーも併せて実施されました。

国土交通省九州地方整備局は、このスタディツアーで、高校生に大規模地震災害による被災地を想定した緊急支援物資の輸送等を体験してもらい、防災対策の重要性および国土交通省が取り組む災害対応について、理解を深めてもらえるよう防災訓練を実施しました。

2. 防災訓練の概要

実施日：2024年10月22日

会場：八代港（くまモンポート八代）
（熊本県八代市新港町1丁目25）

実施者：九州地方整備局、
熊本地方気象台

参加者：海外の高校生 約60名
（12か国から参加）

実施内容：

- ① 海洋環境整備船「海煌（かいこう）」による漂流物回収訓練の見学
- ② 津波フラッグを用いた避難訓練
- ③ 緊急支援物資の輸送・給水訓練

3. 防災訓練の内容

1) 海洋環境整備船「海煌」による漂流物回収訓練

地震により津波が発生し、流木等の漂流物が八代港内を埋め尽くし、緊急支援物資の受け入れができない状況を想定し、九州地方整備局が所有する海洋環境整備船「海煌」による漂流物の回収訓練を見学しました。

高校生は、岸壁上から「海煌」に搭載されたスキッパーによる木くず等の回収や多関節クレーンによる流木回収



図1 八代港（くまモンポート八代）



図2 「海煌」の漂流物回収を見学する様子



図3 津波フラッグの呼びかけで避難する様子



図4 緊急支援物資の輸送を体験する様子



図5 「海煌」を背に記念撮影



図6 訓練後はくまモンとも記念撮影

を見学するとともに、「令和2年7月豪雨」で有明海や八代海に大量に流出した漂流物が海上交通や漁業に影響しないよう回収した事例を紹介し、漂流物の回収に対する理解を深めました。

2) 津波フラッグを用いた避難訓練

海岸で津波警報が発表された状況を想定し、熊本地方気象台の担当者が津波フラッグを大きく振って、避難を呼びかけました。高校生は、津波フラッグによる呼びかけを受けて、高台に見立てた避難場所へ迅速に逃げる訓練を行うとともに、「東日本大震災」で多くの方が津波による被害を受けたことや聴覚だけでなく視覚的に伝達することの重要性について、理解を深めました。

3) 緊急支援物資輸送・給水訓練

1) により、八代港内の漂流物が撤去され、岸壁が利用可能になったため、支援地から「海煌」に積載された緊急支援物資と生活用水を、緑地に設けた避難所に運び入れる輸送訓練を実施しました。高校生は、接岸した「海煌」から緊急支援物資と生活用水を受け取り、運搬車に積み込む班と避難所へ運搬された緊急支援物資を避難所に運び入れる班に分かれ、各班の作業状況も映像で見学しつつ、各所で輸送を体験しました。

また、「熊本地震」では、海煌をはじめ全国の地方整備局が保有する船舶を利用した支援が行われたことや、令和6年1月1日に発生した「能登半島地震」でも、港湾を介した緊急支援物資輸送が行われたことを紹介し、更に理解を深めました。

4. おわりに

今回の防災訓練は、参加体験型とし、港湾を拠点とした緊急支援物資輸送等の災害対応について、世界各国の将来を担う高校生の記憶に残るようなものとなるよう努めました。当日は、小雨混じりの天候にもかかわらず、高校生からは真剣に取り組む姿勢が感じられ、フランスから参加した高校生からは、「海の近くに住んでいるので、この経験は今後も役に立つと思う。」「フランスでも洪水がおきるので、学んだことを生かしたい。」と振り返ってくれました。

参加した高校生が、今回の訓練で学んだ知識と経験を自国へ持ち帰り、自然災害から国や地域、命を守るリーダーとなり、世界で活躍していくことを願っています。

日本最高峰のビーチスポーツ大会が集結！ 「ジャパンビーチゲームズ須磨」

NPO法人日本ビーチ文化振興協会
代表理事 佐伯 美香

須磨海岸の魅力为全国に発信

須磨海岸（兵庫県神戸市）は、神戸市の中心地「三宮」から電車で15分ほどの場所に位置し、「JR須磨駅」の目の前には全長1.8kmのビーチが広がる自然海岸である。

地域住民を始め、夏季シーズンには関西圏から多くの海水浴客が訪れ、賑わいをみせているが、以前はマナーの悪い海水浴客や騒音問題などが目立っていた。神戸市は、「誰もが安心して快適に過ごせる須磨海岸」を目指すため、騒音・花火の規制や禁煙、入れ墨の露出禁止など、健全化を図るための条例を制定した。さらに、家族連れや小さい子どもでも楽しめるように、砂浜の遠浅

化工事や海岸の下水道を整備したことで、海の家シャワーやトイレの排水も下水処理ができるようになった。

これらの取り組みを踏まえ、国際NGO「FEE（国際環境教育基金）」が認証する「ブルーフラッグ」を取得するため申請を行った。「ブルーフラッグ」は、「環境教育と情報」「水質基準」「環境マネジメント」「安定性・サービス」の4分野33項目の基準を満たしたビーチ・マリナーに与えられ、現在では、世界51カ国、5,121カ所が取得し、日本では14カ所の海水浴場・マリナーが認証を受けている。須磨海岸はその基準をすべて満たし、2019年に「ブルーフラッグ」を取得した。

リニューアルしたビーチは「安心・安全で快適な須磨海岸」の魅力を広くPRするため、2017年から「ビーチライフin須磨」を開催し、中でも、ビーチバレーボールやビーチウッドボールの一般大会は好評となった。

そして2023年、日本最高峰のビーチスポーツ大会が集結する日本初「ジャパンビーチゲームズ須磨」が開催され、大会を通じて全国に須磨海岸の取り組みを披露した。

ビーチゲームズ日本招致プロジェクト

このイベントは、世界で開催されているビーチ・マリンスポーツの国際大会「アジア・ワールドビーチゲームズ」を招致PRし、興味を持っていただくためのプロジェクト「ビーチゲームズ日本招致プロジェクト」の活動の一環として開催されてきた「ジャパンビーチゲームズフェスティバル」をより競技化した大会である。

海や砂浜を舞台にしたビーチ・マリンスポーツの総合大会「アジアビーチゲームズ」が、2008年にインドネシア・バリにて開催され、世界がその大会に注目した。そして、アジアの枠を超えて2019年「ワールドビーチゲームズ」がカタール・ドーハにて行われ、97カ国1237人の選手が集結し6日間にわたって13競技36種目



1.8 kmにのぼる須磨海岸

が実施された。

世界では積極的なビーチ資源の活用が活発に行われ、観光誘客、経済活性に結びついている。

島国日本のビーチ資源を多分に活かし、「元気力・活性力・世界への発信力」に繋げるため、2014年「ビーチゲームズ日本招致プロジェクト」を発足した。

2017年には、ビーチバレーボールをはじめ、競技団体とネットワークを強化し、「ジャパンビーチゲームズフェスティバルおだいば（東京都港区お台場海浜公園）」をスタート。多種多様なビーチ・マリンスポーツの公式戦や体験会を実施し、第1回開催時には約60,000人が来場し、注目を集めた。

これに関心を寄せた千葉市が2020年に「ジャパンビーチゲームズフェスティバル千葉（千葉県千葉市稲毛海浜公園）」を開催し、そして神戸市がより競技力を重視した「ジャパンビーチゲームズ須磨」の開催に向けて手を挙げた。

ジャパンビーチゲームズ須磨

「ジャパンビーチゲームズ」は、ビーチ・マリンスポーツ競技の最高峰の公式戦を開催する大会であり、多種目の競技を同時に観戦できる大会は他にない。公式戦では、ポイント獲得、賞金、日本代表を決定するなど、選手のパフォーマンス力も非常に高い。唯一無二のビーチスポーツ総合大会「ジャパンビーチゲームズ」が須磨海岸でスタートし、2024年に2回目の開催を迎えた。



アーバンスポーツで人気のスラックライン



ビーチコーフボール



ビーチバレーボール佐伯美香カップ



ビーチ相撲



すまいる食堂

開催を盛り上げるため、神戸市協力のもと、神戸市内の商業施設、電車、駅構内、バス車両など公共交通機関にイベントポスターを掲示、駅構内のデジタルサイネージを活用したイベント告知、地元のキーメディアでのCM出演など、ありとあらゆる宣伝をしたことで、市内から近県までの大きなPRにつながった。

10月5日(土)、6日(日)の2日間で関西圏を中心に他県から約25,000人の来場者が訪れ、ビーチスポーツの公式戦6種目、体験会11種目のプログラムが大会を盛り上げた。

公式戦には、今年新たなスポーツ「ビーチコーフボール」が参画した。オランダ発祥のスポーツで、世界約69ヵ国で行われている「コーフボール」は、バスケットボールに似た球技で、男女混合8人制で行われ、ドリブル禁止、2歩以内の移動制限、360度シュートが可能などのルールが特徴的である。運営した日本コーフボール協会としても、初めての大会を開催し、埼玉県や愛知県、岡山県など全国から7チームが参加した。体育館などのインドアで行うこ

とと違い、「砂」「風」「日差し」など自然の中でのプレイに最初はぎこちなかった選手の動きも、徐々に慣れていった様子で、ビーチならではのダイナミックなプレイやスピーディーな展開に、選手たちも笑顔を見せ、ビーチスポーツの魅力を体感していた。

2日間に渡る熱戦を制した優勝チームはトロフィーを掲げ、喜びを分かち合い、スマートフォンで記念撮影をして、その様子をSNSへアップした。日本コーフボール協会も大会を通じて、「ビーチ」の魅力を再認識し、今後の発展に意欲を見せていた。

「観る」だけでなく、「体験」できるのも、「ジャパンビーチゲームズ」の人気のひとつである。体験会の中で盛り上がりを見せていたのが、「ビーチ相撲(運営団体:公益財団法人日本相撲連盟)」であった。簡易的な土俵がつくられ、現役の相撲選手が土俵の周りで四股を踏む姿に、家族連れや外国人旅行者も近くに来てその様子をカメラに収めていた。体験会の「体当たりチャレンジ」では、子どもたちが力を合わせて選手を押し

出すことに挑戦。土俵際まで選手を追い込むと、「頑張れ!」と応援する声に、子どもたちもそれに応えるように力を入れ、選手が倒れると子どもたちは飛び上がって喜んでいった。さらに盛り上がりを見せていたのは、大人との取組みだった。大柄な参加者が顔を赤くして力いっぱい選手を押ししてもビクともしない様子に、周りから「押せ!押せ!」と声援が送られ、一体感が生まれていた。運営した日本相撲連盟は、相撲を「観る」から「取る」楽しさを体感し、身近に感じてもらうことができたこと、手応えを感じていた。まさに、日本独自のスポーツである。

同時開催イベント<ビーチライフin須磨2024>

夏の海水浴だけでなく、四季を通じて地域住民が須磨海岸を利用することで、「ヘルスアップ」「青少年育成」「海辺の環境保全」、そして、ビーチ・マリンスポーツを活用した「観光誘致促進」につながることを目的に、長年親しまれてきた「ビーチライフin

須磨」も、同時開催イベントとして会場を盛り上げた。

「ビーチバレーボール4人制一般大会～佐伯美香カップ～」 「ビーチウッドボール大村杯」は、年々参加チームが増え、ビーチバレーボールは56チーム303人、ビーチウッドボールは22チーム96人のエントリーがあり過去最多となった。両イベントの特徴は、地元企業の参加チームが多いことである。社員が家族を連れて参加する様子もあり、親を応援する子どもの姿や、企業間の交流も生まれ、まさに太陽の下の大運動会である。

そして、「ビーチライフin須磨」の誘客につながる「すまいる食堂」は、地元の飲食店約40店舗を超えるキッチンカーが並び、地産地消の料理や多国籍料理、スイーツなどが販売され、大いに賑わい感が増した。両日とも、「すまいる食堂」には行列ができ、売切れ店舗も続出するなど、盛況をみせていた。

海辺の環境保全活動

本イベントでは、地域と協働して「海辺の環境保全活動」にも取り組んでいる。海辺を守り、育て、創り上げていくことで、よりよい海辺環境を次世代に残せるよう、様々な活動を通じて啓発している。

ビーチスポーツアスリート、来場者、参加者とともに行う「ビーチクリーン活動」では、活動前に参加者に「オリジナルビーチクリーンバッグ」を配布している。メッシュ地でできたバッグを使用することで、砂が落ちてゴミだけが残し、分別しやすい仕組みとなっている。使い捨てのゴミ袋とは違い、洗って繰り返し使えるエコバッグとしての機能も兼ね備えている。ビーチに遊びに行くときはこのバッグを持っていき、ゴミを持ち帰る習慣づくりが定着することを目指していきたい。

須磨海岸で藻場づくりや海洋保全活動などを行っている「須磨里海の会」も活動に参加。子どもたちと

一緒に「アマモの植ええポット」を作るブースを出展し、須磨海岸に住む海洋生物や海洋環境をわかりやすく説明しながら、豊かな海を守る大切さについて子どもたちに伝えていた。「アマモポット」はダイバーが海に潜り、一つずつ海底に植えられた。

「ビーチゲームズ日本招致プロジェクト」発足から10年が経ち、ビーチ・マリンスポーツ団体も33団体となり、一丸となって各地でビーチを盛り上げてきた。2025年には「ジャパンビーチゲームズ須磨」で国際大会を予定している競技団体もある。

「恵まれたビーチ環境」「神戸を象徴する景観」「優れた立地・利用しやすいデザイン空間」「都市とビーチの両方を楽しめる旅先」としての特徴、魅力を備えている須磨海岸。この強みを最大限に活かし、「ビーチ・マリンスポーツが楽しめる安心・安全で快適な須磨海岸」として市民のみならず、関西圏の方々にも親しんでもらえるよう、今後も神戸市と連携を図り、港、海辺の発展を進めていきたい。



アマモの種まき



アマモポットを植える作業

全国海岸リレー紹介

北海道

みなと観光交流センターについて

網走市 建設港湾部 港湾課

●はじめに

網走港は、北海道北東部のオホーツク海に面し、網走川の河口部に位置する河口港から発展し、現在は網走市、北見市を中心としたオホーツク地域の東部を背後圏とし、農業、林業、水産業を中心とした産業や人々の生活に関わる物流を支える港湾として重要な役割を果たしています。

網走港の整備は大正8年の避難港としての修築工事から始まり、昭和53年の重要港湾への指定を契機に本格的な港湾整備が進められました。

平成5年には、大型国際貨物船の対応が可能である新港地区-12メートルの岸壁が供用開始となり、背後圏の製糖工場で使用する石炭の輸入港となっています。更に平成26年には、小麦の集出荷の規模拡大に伴う新たな施設整備により、北海道全体の25%を占めるオホーツク圏の小麦を移出し、食料供給基地としても重要な役割を果たしています。

また、網走川河口に位置する川筋地区は、

古くから鮭などの漁業施設として栄え、全盛期には沖合底曳船など多くの漁船が係留され、船を伝い対岸に渡れるほど活気を呈していました。

しかし、漁船の安全かつ効率的な利用のため、新港地区に新たな小型船だまりを整備したことによる漁船の移転に伴い、川筋地区の有効活用方策と周辺エリアの再開発が計画されました。

●みなと観光交流センター

「みなと観光交流センター」は、川筋地区の再開発を進める「みなと観光交流促進プロジェクト」により、年間を通じた賑わいのある施設の建設が必要であるという観点から、流水観光砕氷船「おーら」の運航拠点となるクルーズターミナルと「道の駅」機能を

併せ持つ施設として平成21年に建設され、翌年には「みなとオアシス」へ登録されました。現在は、日本人観光客や外国人観光客が年間60万人ほど訪れるウォーターフロント空間となっており、夏の風物詩である花火大会などの観覧会場にもなっています。

●おわりに

流水が訪れる季節、毎年2月に網走港第1埠頭特設会場で行われる「あばしりオホーツク流水まつり」は、今回で60回目の開催となる歴史を誇るイベントです。たくさんの水雪像が並び、夜のライトアップは幻想的な雰囲気にも魅了されます。また、会場では歌謡ステージやキッチンカーが出展し「観・聴・食」が楽しめます。ぜひお越しください。



網走川河口



「流水観光砕氷船おーら」と「みなと観光交流センター」



「あばしりオホーツク流水まつり」の様子

東北

みなとオアシスあおもりとあおもり駅前ビーチについて

青森県県土整備部港湾空港課

1. はじめに

青森港は、津軽半島と下北半島に囲まれた陸奥湾の湾奥に位置する天然の良港であり、県都青森市を直背後に要する重要港湾です。1625年に津軽から江戸への廻船を幕府に許されたことが始まりとされ、近代以降は青函航路の要衝として発展し、このたび開港400周年を迎えました。

「みなとオアシスあおもり」は、青森港のフェリー埠頭から新中央埠頭までの区域が登録されており、特に青森駅前海側周辺（※アフロエリア）は、文化観光交流施設や商業施設を有し、多くの観光客で賑わっています。

※アフロエリアとは、アオモリウォーターフロントエリアの略称です。

2. あおもり駅前ビーチ（通称「A-BEACH」）

アフロエリアの新たな賑わい施設として、



アフロエリアの中央に位置する「あおもり駅前ビーチ」

人工海浜「あおもり駅前ビーチ」を令和3年度に供用開始しました。

本施設は、浮遊ゴミの滞留や悪臭に悩まされていた入り江に位置する「旧青函連絡船第一岸」跡地を海浜として整備したもので、海辺の環境再生と、人的交流機会の創出を事業目的の両輪としています。

供用開始から3年が経過し、様々なイベントや海洋環境学習のフィールドとして活用されているほか、特にイベント等が無くとも地域住民や観光客が気軽に足を運んでいただけの施設となったことが本事業の最大の成果であると感じています。

振り返れば、事業の計画段階で海浜を昼夜問わずオープンなスペースとするため、侵入防止柵を設けない代わりに、注意喚起の看板や照明灯等で管理上のリスクを抑

制したことが地域住民に親しまれる結果に繋がったと評価しております。

3. おわりに

先日、ビーチを卒業論文のテーマにしたいという大学生に、本事業について説明する機会がありました。聞くところによると、高校生のときにNPOに参加し、駅前ビーチの前身となった実証実験施設（通称「ミニ干潟」）で磯場づくりに参加しており、大学卒業後は本県へ入庁することが決まっているとのこと。思わぬ形で本事業が海の担い手の育成にも寄与していることが分かりました。

今後も観光客・地域住民双方から愛されるよう、より一層の魅力向上に努めて参ります。本県にお越しの際は、電車の待ち時間にも裸足になって海に触れてみてはいかがでしょうか。青森駅から徒歩2分です。



事業開始前の「ミニ干潟」時代のアマモ播種の様子(2015年)



海の日イベント時の様子(2024年)

伊豆諸島新島「新島港海岸における離岸堤の整備」について

東京都港湾局離島港湾部計画課

1. はじめに

新島は、東京の南方海上約150kmに位置し、北側の宮塚山、南側の向山の二つの火山群が接合した南北に細いひょうたん型の島です。

新島港海岸は、新島の西部に位置する伊豆諸島最大級の白砂海岸となっており、黒根海水浴場では、海水浴やマリンスポーツ、各種イベントの場として賑わいを見せています。

2. 海岸侵食対策による離岸堤の整備と養浜

東京都は、本海岸において、波浪による

侵食から海岸を守るため、昭和57年から平成30年まで離岸堤の整備及び改良を実施してきました。しかし、近年の激浪に伴い、離岸堤の消波ブロックの沈下・飛散等が発生したため、老朽化対策として、令和元年から海岸メンテナンス事業として離岸堤の補修を行っています。また、港湾工事等で発生する土砂を養浜材として本村前浜に撒き出し、海浜の保全を図っております。

これまでの取り組みの成果としては、離岸堤の整備や養浜の実施から砂浜の侵食が低減され、砂浜範囲が広がり多くの観

光客や島民に利用される海水浴場となっております。

3. おわりに

新島港海岸では、毎年夏季シーズンを中心に多くの観光客などで賑わっています。東京都では、現在、厳しい波浪等から海浜を維持するため、離岸堤の補修及び養浜を実施しています。引き続き、来島する皆様に末永く愛され利用される海岸を目指して、今後も利便性・安全性を向上させる取り組みを進めてまいります。



新島港海岸



黒根海岸 トライアスロン大会



前浜海岸 海水浴場

みなとオアシス魚津

富山県魚津市 農林水産課

みなとオアシス魚津は平成19年3月に北陸初の「みなとオアシス」として認定されました。魚津港は北地区と南地区で構成されていますが、当時のオアシス魚津は「海の駅蜃気楼」を代表施設として北地区の周辺施設のみが登録されていました。

その後、北地区と南地区を通り抜ける道路、通称「蜃気楼ロード」が国土交通省から日本風景街道やナショナルサイクルルートに指定されるなど、魚津港の両地区が連動

した観光ルートとして認識されてきました。このことから、令和6年4月に「みなとオアシス魚津」の区域が拡大され、南地区周辺の施設も追加登録されました。

●魚津港 北地区

魚津港北地区は富山県東部の物流拠点であるほか、県下屈指の漁場の水揚げ拠点になっています。水揚げされる代表的な魚種としては、春のホタルイカ、冬には魚津発祥の「カニ籠漁」によるベニズワイガニが挙げられます。

また、代表施設の海の駅蜃気楼では春

から初夏にかけて蜃気楼を観測することができ、隣接する魚津埋没林博物館では、

特別天然記念物に指定されている魚津埋没林を観ることが出来ます。そして8月には蜃気楼ロード沿いに隣接している諏訪神社で「たてもん祭り」が開催されます。

●魚津港 南地区

蜃気楼ロードを南に進むと大正時代の米騒動発祥の地を通り過ぎて魚津港南地区に入り、3つの施設に到着します。

魚津水族館は現在日本に現存する水族館の中で最も歴史が古い水族館です。館内の水槽設置されているアクリルトンネルは日本初のもので

ミラージュランドは富山県内唯一の遊園地としてファミリーや子どもたちに人気の施設です。

魚津総合公園は、春にはソメイヨシノやサトザクラなど約350本が咲き誇る、富山さくらの名所70選にも指定されている市民の憩いの場となっています。

このように新しくなった「みなとオアシス魚津」では、海の幸、自然の神秘、日本の近代史などに幅広く触れることができます。皆さまぜひお越しください。



代表施設「海の駅蜃気楼」



「海の駅蜃気楼」付近からの蜃気楼



たてもん祭り



魚津水族館
日本初のアクリルトンネル

全国海岸リレー紹介

中部

清水港海岸 地域の方々との協働

静岡県交通基盤部港湾局

●はじめに

清水港(清水港海岸)は、霊峰富士を仰ぎ、三保半島に包まれた静穏な水域を有する日本屈指の良港で、「ものづくり県・静岡」を支える海の玄関口であるとともに、近年はクルーズ船の寄港増加で、港周辺の人流が盛んとなり、にぎわいの場としても発展しています。

一方で、港(海岸)と人々の暮らしの場が近く、ここで生活する人々の安全・安心の確保が大きな課題でもあります。

●民間と協働で取り組む防潮堤整備

本県は、南海トラフ巨大地震等による津波対策を重点施策の1つとして取り組んでいます。清水港海岸は保全海岸延長約20.9kmのうち約9.5kmが無堤区間、特に市街地に面する江尻・日の出地区の施設整備が喫緊の課題であり、令和3年度から補助、

交付金事業で整備を進めているところがあります。このような中、日の出地区では、令和5年11月に大型商業施設と連携して防潮堤と緑地、商業施設が一体となった空間が完成しました。防潮堤を感じさせない一体感のある海辺の新しい風景は利用者から好評をいただいています。

●使いやすい浜辺を目指して

三保地区(三保内浜)は、風光明媚で自然豊かな天然の海浜地であり、三保半島が防波堤の役割を成し、穏やかな海面を持つことから、一年を通じてマリンスポーツが楽しめるなど、観光資源の潜在力が非常に高い地区ですが、パトロールや海岸清

掃等にかかる予算や人員が限られ、質の高いサービスを十分に提供できていない状況にありました。

そこで、令和5年度から、海浜地全体の管理と運営を公募により選定した民間事業者へ委ね、日々のパトロールや清掃、マリンスポーツ大会の企画、運営、誘致等、様々な活動を同事業者が行う「清水港三保内浜エリアマネジメント」の取組を開始し、地域のにぎわいづくりに貢献しています。

●おわりに

今後も、訪れる人、生活する人が安全に安心して過ごせる“みなとまち”づくりを関係者の協働で進めてまいります。



日の出地区 防潮堤・緑地・商業施設を一体となって整備



三保地区(三保内浜) 風光明媚な天然の海浜地(対岸より)

近畿

みなとオアシス京都舞鶴うみとびらの紹介

京都府 港湾局 港湾企画課

●舞鶴港

舞鶴港は、京都府北部の若狭湾西部に面する港であり(図1)、湾口が狭く周囲を高い山で囲まれているため、年間を通じて波が穏やかな天然の良港である。そのため、海上自衛隊や海上保安庁の海の安全を守る組織がある(図2)他、関西経済圏



図1 舞鶴港位置図

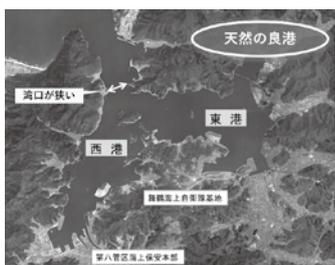


図2 舞鶴港

唯一の日本海側拠点港として、国内外にひらかれた人流・物流の拠点、さらには府北部地域の振興拠点として重要な役割を担っている。

●みなとオアシス京都舞鶴うみとびら

舞鶴港による賑わいの創出を目的に、令和4年10月15日に「みなとオアシス京都舞鶴うみとびら」としてみなとオアシスに登録された(全国で156箇所目)。クルーズ船の旅客ターミナルとして主に使用される「京都舞鶴港うみとびら(写真1)」を代表施設に、西舞鶴市街地の中心に位置する4つの商店街「西舞鶴4商店街」などを構成施設に指定し、将来的に「みなと」の周辺地域から西舞鶴市街地へ、賑わい創出エリアの展開を目指している。



写真1 京都舞鶴港うみとびら



●京都舞鶴ベイサイドフェスタ

みなとオアシスの登録を契機に毎年舞鶴港西港でイベントを実施している。直近では令和6年10月20日に京都舞鶴ベイサイドフェスタを開催した(写真2)。当イベントの主な内容は、「みなと」と地元商店街を結ぶスタンプラリーやふ頭に面する緑地を利用したドッグランなど、「みなと」を身近に感じてもらうきっかけづくりとなるようなイベント構成となっている。同日に同港で海上保安庁主催の「ブルーフェスタ2024」が開催されたこともあり、来場者数は約3,000人と盛り上がりを見せた。

●読者の皆様へ

みなとオアシス京都舞鶴うみとびらは、今後更なる賑わい創出のため、「みなと」を核としたまちづくりに資する様々な取り組みを進めていく予定です。ぜひ舞鶴港へ足をお運びください。

写真2 京都舞鶴ベイサイドフェスタの様子(R6.10.20開催時)

海と人をつなぎ、親しまれる海岸を目指して

島根県土木部港湾空港課

●はじめに

別府港は、隠岐ユネスコジオパークに認定されている島根県隠岐諸島にあって、隠岐最大の景勝地『国賀海岸』や隠岐にご配流された後醍醐天皇が脱出までの1年を過ごされた行在所『黒木御所』を有する西ノ島町の中央部に位置し、リアス式海岸の地形を利用した天然の良港で、隠岐諸島と本土を結ぶフェリー、超高速船、各島を結ぶ内航船の基地港として利用されている他、建設資材、生活物資等の基地としても利用され、地域の人流、物流の拠点となっています。

●高潮対策事業

別府港海岸は、台風時の波浪により高潮被害をしばしば受けてきたため、昭和47年度に海岸保全事業に着手し、昭和55年度ま

でに護岸の整備を行いました。しかし、波浪時には越波・飛沫による背後民家への被害が未だ生じていたこと、また護岸の老朽化によるクラックの発生や水叩きの沈下などが顕在化しました。このため、平成8年から平成30年にかけて高潮対策事業により、沖合に離岸堤(潜堤)を整備すると共に、老朽化した護岸に替わる階段式護岸を整備、人工海浜により海とふれあえる空間を創出しました。

●海岸利用

海岸からは対岸の島々や隠岐諸島を行き交うフェリー、超高速船などが眺められランニングや散歩、魚釣り等で年間を通じて、地元の方々に愛着を持って利用されています。また、夏には遊泳場が開設され海水浴やSUP(サップ)などのマリレジャーに利用

されています。現在は、トイレやシャワー室も整備し、利便性が向上しました。

また、利用者の方々に海岸を安全に気持ちよく利用してもらえるよう、県、町、地元自治会が協力し、毎年海開き前に海岸清掃を実施しています。今年度は約30名の参加者が、清掃に汗を流しました。

●おわりに

今後も海岸管理者として、美しい海岸を守りいつまでも地元の方々に愛される憩いの場として利用していただくため、引き続き適切な管理を図ってまいります。

みなさんも、隠岐諸島の優れた景観、レジャー、海の幸を楽しみに、ぜひ隠岐へお越しください。



別府港海岸 位置図



上空から見た別府港海岸



海岸清掃活動の様子



ログハウス風のトイレ(左)とシャワー室(右)

子どもたちの『ふるさと海岸』に

今治市建設部建設政策局港湾漁港課

●はじめに

当市の環境意識調査によると、「海ごみ対策は重要」との回答が多数を占めました。しまなみの風光明媚な海岸を享受する市民は海洋環境に対する問題意識が高いようです。

昔から地域の人々が海水浴などを楽しむ大新田海岸は、近年、不法投棄や漂流ごみに悩まされていました。そこで、環境団体

ビーチクリーンしまなみと協働し、地域住民目線の取組を開始しました。海ごみの調査や清掃イベントを通じて、住民主導による地域の海岸保全を実現しています。

●事業概要

本事業の特長は、『未来を担う子どもたちを対象』とした点にあります。身近な海岸に愛着をもち、将来の進路選択において、ふるさと今治に帰ってきてもらえるような仕掛けが込められています。

取組①『ビーチマネー』の創出…ビーチクリーン(清掃活動)によりビーチマネー(対価)を得ます。これ

を使って、SUP体験やお菓子と交換するという枠組みで地域経済循環を学びます。清掃活動が、子どもたちの楽しい思い出づくりに変身しました。

取組②『ごみはいやたい』くんの作成…海ごみで鯛の模型を飾りつけることにより、海ごみの見える化を図りました。本作品及び拾い箱は、イベント後も常設し、環境への意識啓発をしています。

イベント当日は約100名の参加により350kg程のごみが収集され、参加した小学生からは、「こんな良い場所だったんだ、もっとキレイにしないと」といった声、大人からは「今日の雰囲気は、古き良き時代を思い出した」といった声が聞かれ、多くの方が継続を希望しています。



取組前は、ごみが目立つ海岸

『ごみはいやたい』くん
※いやたい…醜い、下品といった今治の方言

拾い箱



シーグラスを『ビーチマネー』に



現在の大新田海岸

●おわりに

公共空間である海岸を住民の愛着で守り育てるこの取組により、大新田海岸には、ごみ拾いを通じた新たなコミュニティが醸成され、天気の日には誰かがいる、持続可能で環境にやさしい地域が形成されています。

全国海岸リレー紹介

九州

国東港海岸(向田地区) 侵食対策事業について

大分県 土木建築部 港湾課

●はじめに

国東港海岸(向田地区)は、伊予灘に面した国東半島の北東部に位置し、両子山をはじめとする両子火山群の峰々が連なる姿や伊予灘を一望できる眺望から景観に恵まれた地域となっています。

また、国東半島宇佐地域は、日本一の蓄積量を誇るクスギ林と複数のため池が連携したシステムを基盤に、日本一の原木しいたけ生産や国内で唯一のシチトウイ生産など、独特な農林水産業が営まれているとともに、多様な生態系も保全されており、「クスギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林循環」として平成25年度に世界農業遺産へ認定されています。



侵食被害前の利用状況

●国東港海岸(向田地区) 侵食対策事業について

当該箇所は長年海水浴場として親しまれていましたが、近年、海岸の侵食が進行したことにより、利用に支障をきたすとともに、背後の家屋や農地への被害も懸念されていました。

そのため、平成26年度から事業に着手し、離岸堤や護岸の新設と養浜といった対策を実施しています。

まず、更なる海岸の侵食を抑制するため、離岸堤の施工を先行して実施し、令和5年度末に完成しました。現在、護岸の施工を進めており、その完成後、養浜工に着手し、事業完了を目指しています。



整備状況



現場見学会状況

設計にあたっては、海岸へのアクセスを阻害しないように、護岸や離岸堤の高さを設定し、利用者の利便性を確保できるように配慮しました。

●おわりに

事業完了後も、地域が主体となって保全活動などを行えるように、地元の高校生に対して現場見学会を開催するなど、地域と密接して事業を進めています。

最後になりますが、今後も海岸整備の早期完了に向け、着実な事業執行に取り組んでいきます。

沖縄

みなとオアシスもとぶについて

沖縄県土木建築部 港湾課

●はじめに

「みなとオアシスもとぶ」は、古くから沖縄本島的那覇と北部を結ぶ港として栄えてきた「本部港(本部地区、渡久地地区)」や、クロワッサンアイランドとして知られる水納島の玄関口である「水納港」で構成されており、地域の交流拠点となることを目的としています。

本部港は、沖縄本島の北部、本部半島の西端に位置し、琉球王朝時代から利用されてきた天然の良港です。古くは中国、薩摩の定期船の避難港、沖縄北部地域の拠点港として賑わい、近年では沿岸カツオ漁業の基地として、また本土航路の中継地や沖縄本島と離島を結ぶ生活に密着した「みなと」に発展し、現在は国際客船も寄港する国際交流の「みなと」として、歴史を重ねてきています。



カツオのぼり(本部港 渡久地地区)

●クルーズ船と崎本部緑地の海岸

本部港(本部地区)は、北部地域の豊かな自然環境を活用したエコツーリズムや海洋レジャーの促進、新たな観光ルートの形成など、沖縄本島北部地域の振興に資する観光拠点を目指し、国から国際旅客船拠点形成港湾に指定され、大型クルーズ船寄港対応の岸壁(延長420m)が整備されています。北部地域に新テーマパークの開業予定もあり、国内寄港最大級の大型国際クルーズ船の寄港が見込まれています。崎本部緑地に隣接する海岸は、通称「ゴリラチョップ」と呼ばれる県内有数のダイビングスポットで、一年を通して多くのダイバーで賑わっています。



2024年8月国際クルーズ船の寄港とゴリラチョップ

●水納(みんな)港と水納ビーチ

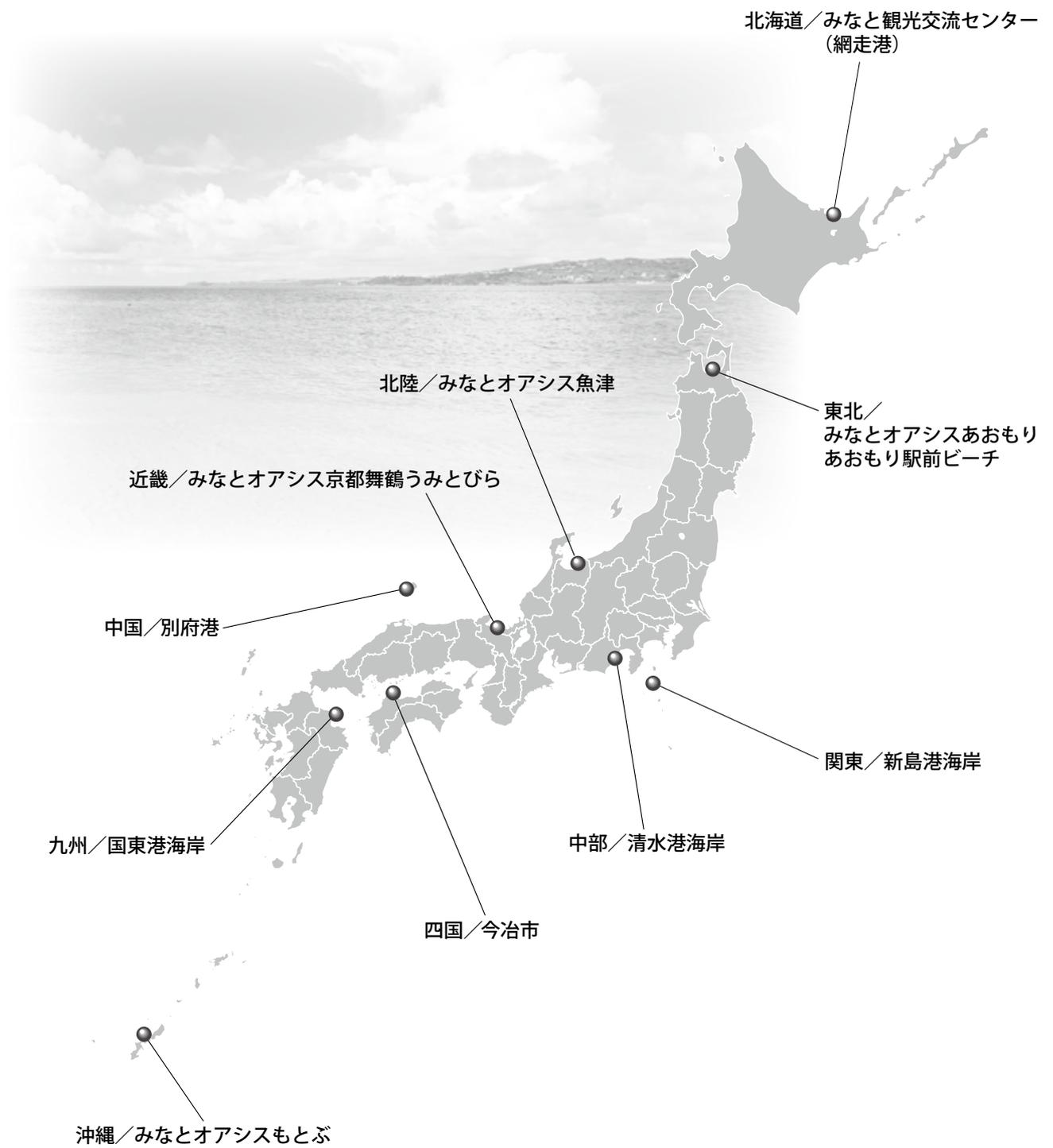
水納港は、本部港から西約7kmに位置する珊瑚礁に囲まれた面積0.47km²の小さな島「水納島」の北東部に位置しています。特に、港湾内の水納ビーチは、砂浜の美しさが人気で、県内外からマリネジャーのために多くの観光客が訪れています。

本港は、定期船のほか、多くのプレジャーボート等の寄港で係留施設不足が課題であるとともに、乗降時の船舶と物揚場とに大きな段差があり、港湾利用者の安全な乗降を図る必要があることから、沖縄県では令和4年度から水納港の港湾改修事業に着手し、港湾利用者の安全性や利便性の向上に向けた施設整備を進めています。

本部港から高速船でわずか15分の楽園に是非お越しください。



水納港事業完成イメージと水納ビーチ



データで見る海岸・防災

①人口・資産が高度に集積する港湾海岸

- ・港湾区域・港湾隣接地域においては港湾管理者が海岸管理者となることにより、港湾行政と海岸行政の一体的・効率的な運営を行っている(海岸法第5条第3項)。
- ・港湾海岸延長は全体の28%であるが、**防護人口では全体の61%**を占めるとともに、**背後に物流・産業機能が高密度に集積**している。

※港湾所在市区町村の整理は令和7年1月時点

● 背後地が大都市やみなとまち

防護が必要な海岸延長

| | |
|---|---------------------------|
| 港湾海岸 約28% (約3,900km) | 他所管の海岸 約72% (約9,900km) |
| (約13,800km) 【出典】海岸統計(令和5年度版)(R5.3.31時点) | |



東京港海岸(東京都)

防護すべき人口

| | |
|---------------------------------------|-------------------------|
| 港湾海岸 約61% (約578万人) | 他所管の海岸 約39% (約370万人) |
| (約948万人) 【出典】国土交通省、農林水産省調べ(R6.3.31時点) | |



呉港海岸(広島県)

● 物流・産業機能が高密度に集積

全国の面積に占める港湾所在市区町村の割合

| | |
|--|--|
| 港湾所在市区町村 約32% (約12万km ²) | その他(内陸部も含む) 約68% (約26万km ²) |
| (約38万km ²) 【出典】全国都道府県市区町村別面積調(2024.10.1現在) | |



大阪港海岸(大阪府)

全国の製造品出荷額等に占める港湾所在市区町村の割合

| | |
|---|------------------------------|
| 港湾所在市区町村 約48% (約172兆円) | その他(内陸部も含む) 約52% (約190兆円) |
| (約362兆円) 【出典】2023年経済構造実態調査 製造業事業所調査「地域別」統計表データ(値は2022暦年値) | |



千葉港海岸(千葉県)

物流・産業機能が高密度に集積する港湾（都道府県別データ）

※港湾所在市区町村の整理は令和7年1月時点

| 地方 | 都道府県 | 全国の面積に占める港湾所在市区町村の割合 【出典】全国都道府県市区町村別面積調（2024.10.1 現在） | | | 全国の製造品出荷額等に占める港湾所在市区町村の割合 【出典】2023年経済構造実態調査 製造業事業所調査 [地域別] 統計表データ（値は2022暦年値） | | |
|-----|------|--|-------------------------------|-------|--|-----------------|-------|
| | | 都道府県(km ²) | 港湾所在市区町村の合計(km ²) | 割合(%) | 都道府県(兆円) | 港湾所在市区町村の合計(兆円) | 割合(%) |
| 北海道 | 北海道 | 83,422 | 17,045 | 20 | 6.64 | 3.44 | 52 |
| 東北 | 青森県 | 9,645 | 4,586 | 48 | 1.78 | 1.05 | 59 |
| | 岩手県 | 15,275 | 3,941 | 26 | 3.11 | 0.36 | 12 |
| | 宮城県 | 7,282 | 1,989 | 27 | 5.48 | 1.85 | 34 |
| | 秋田県 | 11,638 | 2,784 | 24 | 1.58 | 0.66 | 42 |
| | 山形県 | 9,323 | 1,914 | 21 | 3.15 | 0.84 | 27 |
| | 福島県 | 13,784 | 2,629 | 19 | 5.50 | 2.05 | 37 |
| 関東 | 茨城県 | 6,098 | 836 | 14 | 14.86 | 6.55 | 44 |
| | 栃木県 | 6,408 | 0 | 0 | 9.48 | 0.00 | 0 |
| | 群馬県 | 6,362 | 0 | 0 | 9.56 | 0.00 | 0 |
| | 埼玉県 | 3,798 | 0 | 0 | 14.80 | 0.00 | 0 |
| | 千葉県 | 5,156 | 1,850 | 36 | 15.89 | 11.69 | 74 |
| | 東京都 | 2,200 | 616 | 28 | 8.28 | 1.40 | 17 |
| | 神奈川県 | 2,417 | 793 | 33 | 18.23 | 10.98 | 60 |
| 北陸 | 新潟県 | 12,584 | 5,847 | 46 | 5.40 | 3.24 | 60 |
| | 富山県 | 4,248 | 1,761 | 41 | 4.13 | 2.73 | 66 |
| | 石川県 | 4,186 | 2,552 | 61 | 3.07 | 1.06 | 35 |
| | 福井県 | 4,191 | 1,515 | 36 | 2.56 | 1.15 | 45 |
| 中部 | 山梨県 | 4,465 | 0 | 0 | 2.90 | 0.00 | 0 |
| | 長野県 | 13,562 | 0 | 0 | 7.14 | 0.00 | 0 |
| | 岐阜県 | 10,621 | 0 | 0 | 6.54 | 0.00 | 0 |
| | 静岡県 | 7,777 | 4,620 | 59 | 19.03 | 10.00 | 53 |
| | 愛知県 | 5,173 | 1,665 | 32 | 52.41 | 18.64 | 36 |
| | 三重県 | 5,774 | 3,520 | 61 | 11.87 | 7.27 | 61 |
| 近畿 | 滋賀県 | 4,017 | 1,342 | 33 | 8.94 | 1.81 | 20 |
| | 京都府 | 4,612 | 1,953 | 42 | 6.26 | 2.94 | 47 |
| | 大阪府 | 1,905 | 663 | 35 | 20.25 | 10.86 | 54 |
| | 兵庫県 | 8,401 | 3,582 | 43 | 18.34 | 14.06 | 77 |
| | 奈良県 | 3,691 | 0 | 0 | 1.96 | 0.00 | 0 |
| | 和歌山県 | 4,725 | 2,369 | 50 | 3.04 | 2.61 | 86 |
| 中国 | 鳥取県 | 3,507 | 1,457 | 42 | 0.89 | 0.68 | 77 |
| | 島根県 | 6,708 | 4,092 | 61 | 1.38 | 1.21 | 88 |
| | 岡山県 | 7,114 | 1,769 | 25 | 9.70 | 7.93 | 82 |
| | 広島県 | 8,478 | 4,028 | 48 | 10.69 | 9.26 | 87 |
| | 山口県 | 6,113 | 5,640 | 92 | 7.61 | 7.53 | 99 |
| 四国 | 徳島県 | 4,147 | 1,143 | 28 | 2.19 | 1.56 | 71 |
| | 香川県 | 1,877 | 1,448 | 77 | 3.07 | 2.88 | 94 |
| | 愛媛県 | 5,676 | 4,140 | 73 | 5.41 | 5.28 | 98 |
| | 高知県 | 7,102 | 2,596 | 37 | 0.65 | 0.40 | 62 |
| 九州 | 福岡県 | 4,988 | 1,320 | 26 | 10.33 | 5.83 | 56 |
| | 佐賀県 | 2,441 | 1,556 | 64 | 2.29 | 1.04 | 45 |
| | 長崎県 | 4,131 | 4,050 | 98 | 1.57 | 1.47 | 94 |
| | 熊本県 | 7,409 | 2,765 | 37 | 3.48 | 1.29 | 37 |
| | 大分県 | 6,341 | 3,278 | 52 | 5.60 | 5.24 | 94 |
| | 宮崎県 | 7,734 | 2,723 | 35 | 1.83 | 1.00 | 54 |
| | 鹿児島県 | 9,186 | 7,527 | 82 | 2.41 | 2.04 | 85 |
| 沖縄 | 沖縄県 | 2,282 | 1,978 | 87 | 0.47 | 0.38 | 80 |
| 合計 | | 377,976 | 121,881 | 32 | 361.77 | 172.25 | 48 |

データで見る海岸・防災

②「水際・防災対策連絡会議」の開催実績（令和6年12月31日現在）

| 会議名称 | 対象港湾 | 事務局 | 開催日 | | | | |
|--------------------------|----------------------|---------|----------|--------------------|--------------------|---------|---------|
| | | | R2年度 | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 |
| 苫小牧港水際・防災対策連絡会議 | 苫小牧港 | 北海道開発局 | R2.10.7 | R3.7.9 | R4.6.28 R5.3.17 | | R6.6.26 |
| 函館港水際・防災対策連絡会議 | 函館港 | 北海道開発局 | R3.3.24 | R3.7.9 | R4.6.28 R5.3.17 | | R6.6.26 |
| 室蘭港水際・防災対策連絡会議 | 室蘭港 | 北海道開発局 | R3.2.17 | R3.7.9 | R4.6.28 R5.3.17 | | R6.6.26 |
| 釧路港水際・防災対策連絡会議 | 釧路港 | 北海道開発局 | R3.3.11 | R3.7.9 | R4.6.28 R5.3.17 | | R6.6.26 |
| 網走港水際・防災対策連絡会議 | 網走港 | 北海道開発局 | R3.3.26 | R3.7.9 | R4.6.28 R5.3.17 | | R6.6.26 |
| 小樽港水際・防災対策連絡会議 | 小樽港 | 北海道開発局 | R3.3.23 | R3.7.9 | R4.6.28 R5.3.17 | | R6.6.26 |
| 石狩湾新港水際・防災対策連絡会議 | 石狩湾新港 | 北海道開発局 | R3.3.23 | R3.7.9 | R4.6.28 R5.3.17 | | R6.6.26 |
| 留萌港水際・防災対策連絡会議 | 留萌港 | 北海道開発局 | R3.3.4 | R3.7.9 | R4.6.28 R5.3.17 | | R6.6.26 |
| 十勝港水際・防災対策連絡会議 | 十勝港 | 北海道開発局 | R3.3.18 | R3.7.9 | R4.6.28 R5.3.17 | | R6.6.26 |
| 根室港水際・防災対策連絡会議 | 根室港 | 北海道開発局 | R3.3.26 | R3.7.9 | R4.6.28 R5.3.17 | | R6.6.26 |
| 紋別港水際・防災対策連絡会議 | 紋別港 | 北海道開発局 | R3.3.25 | R3.7.9 | R4.6.28 R5.3.17 | | R6.6.26 |
| 稚内港水際・防災対策連絡会議 | 稚内港 | 北海道開発局 | R3.3.23 | R3.7.9 | R4.6.28 R5.3.17 | | R6.6.26 |
| 青森港水際・防災対策連絡会議 | 青森港 | 東北地方整備局 | | R3.7.1 | R4.6.15 | R5.4.27 | R6.6.14 |
| むつ小川原港水際・防災対策連絡会議 | むつ小川原港 | 東北地方整備局 | | R3.7.1 | R4.6.15 | R5.4.27 | R6.6.14 |
| 八戸港水際・防災対策連絡会議 | 八戸港 | 東北地方整備局 | | R3.7.1 | R4.6.15 | R5.4.27 | R6.6.14 |
| 仙台塩釜港水際・防災対策連絡会議 | 仙台塩釜港(仙台区、塩釜港区、石巻港区) | 東北地方整備局 | | R3.7.1 | R4.6.15 | R5.4.27 | R6.6.14 |
| 相馬港水際・防災対策連絡会議 | 相馬港 | 東北地方整備局 | | R3.7.1 | R4.6.15 | R5.4.27 | R6.6.14 |
| 小名浜港水際・防災対策連絡会議 | 小名浜港 | 東北地方整備局 | | R3.7.1 | R4.6.15 | R5.4.27 | R6.6.14 |
| 秋田港水際・防災対策連絡会議 | 秋田港 | 東北地方整備局 | R2.11.5 | R3.7.1 | R4.6.15 | R5.4.27 | R6.6.14 |
| 久慈港水際・防災対策連絡会議 | 久慈港 | 東北地方整備局 | R3.3.25 | R3.7.1 | R4.6.15 | R5.4.27 | R6.6.14 |
| 宮古港水際・防災対策連絡会議 | 宮古港 | 東北地方整備局 | R3.3.25 | R3.7.1 | R4.6.15 | R5.4.27 | R6.6.14 |
| 釜石港水際・防災対策連絡会議 | 釜石港 | 東北地方整備局 | R3.3.25 | R3.7.1 | R4.6.15 | R5.4.27 | R6.6.14 |
| 大船渡港水際・防災対策連絡会議 | 大船渡港 | 東北地方整備局 | R3.3.25 | R3.7.1 | R4.6.15 | R5.4.27 | R6.6.14 |
| 能代港水際・防災対策連絡会議 | 能代港 | 東北地方整備局 | | R3.7.1 | R4.6.15 | R5.4.27 | R6.6.14 |
| 船川港水際・防災対策連絡会議 | 船川港 | 東北地方整備局 | | R3.7.1 | R4.6.15 | R5.4.27 | R6.6.14 |
| 酒田港水際・防災対策連絡会議 | 酒田港 | 東北地方整備局 | | R3.7.1 | R4.6.15 | R5.4.27 | R6.6.14 |
| 千葉港水際・防災対策連絡会議 | 千葉港 | 関東地方整備局 | | R3.7.6 | R4.6.22 R5.3.8 | | R6.6.21 |
| 木更津港水際・防災対策連絡会議 | 木更津港 | 関東地方整備局 | | R3.7.6 | R4.6.22 R5.3.8 | | R6.6.21 |
| 館山港水際・防災対策連絡会議(内航クルーズ部会) | 館山港 | 関東地方整備局 | R2.10.29 | R3.7.6 | R4.6.22 R5.3.8 | | R6.6.21 |
| 川崎港水際・防災対策連絡会議 | 川崎港 | 関東地方整備局 | | R3.7.6 | R4.6.22 R5.3.8 | | R6.6.21 |
| 横須賀港水際・防災対策連絡会議 | 横須賀港 | 関東地方整備局 | | R3.7.6 | R4.6.22 R5.3.8 | | R6.6.21 |
| 東京港水際・防災対策連絡会議 | 東京港 | 関東地方整備局 | R2.9.4 | R3.7.6 R3.11.19 | R4.6.22 R5.3.8 | | R6.6.21 |
| 茨城港水際・防災対策連絡会議 | 茨城港 | 関東地方整備局 | R3.3.3 | R3.7.7 | R4.6.22 R5.3.8 | | R6.6.21 |
| 鹿島港水際・防災対策連絡会議 | 鹿島港 | 関東地方整備局 | R3.3.3 | R3.7.7 | R4.6.22 R5.3.8 | | R6.6.21 |
| 横浜港水際・防災対策連絡会議 | 横浜港 | 関東地方整備局 | R2.7.17 | R3.7.7 | R4.6.22 R5.3.8 | | R6.6.21 |
| 新潟港水際・防災対策連絡会議 | 新潟港 | 北陸地方整備局 | R2.10.23 | R3.7.9 | R4.6.30 R5.3.20 | | R6.7.2 |
| 両津・小木・二見港水際・防災対策連絡会議 | 両津港、小木港、二見港 | 北陸地方整備局 | R3.3.24 | R3.7.9 | R4.6.30 R5.3.20 | | R6.7.2 |
| 直江津港水際・防災対策連絡会議 | 直江津港 | 北陸地方整備局 | R3.3.24 | R3.7.9 | R4.6.30 R5.3.20 | | R6.7.2 |
| 伏木富山港水際・防災対策連絡会議 | 伏木富山港 | 北陸地方整備局 | | R3.7.9 | R4.6.30 R5.3.24 | | R6.7.2 |
| 金沢・七尾・輪島港水際・防災対策連絡会議 | 金沢港、七尾港、輪島港 | 北陸地方整備局 | R3.3.16 | R3.7.9 | R4.6.30 R5.3.24 | | R6.7.2 |
| 敦賀港水際・防災対策連絡会議 | 敦賀港 | 北陸地方整備局 | R3.3.16 | R3.7.9 | R4.6.30 R5.3.22 | | R6.7.2 |
| 名古屋港水際・防災対策連絡会議 | 名古屋港 | 中部地方整備局 | R2.11.16 | R3.7.9 | R4.6.23 R5.3.23 | | R6.6.18 |
| 清水港水際・防災対策連絡会議 | 清水港 | 中部地方整備局 | R2.12.17 | R3.7.9 R3.11.19 | R4.6.23 R5.3.23 | | R6.6.18 |
| 三重県水際・防災対策連絡会議 | 四日市港、津松阪港、尾鷲港 | 中部地方整備局 | R3.3.22 | R3.7.9 | R4.6.23 R5.3.23 | | R6.6.18 |
| 御前崎港水際・防災対策連絡会議 | 御前崎港 | 中部地方整備局 | | R3.7.9 R3.11.19 | R4.6.23 R5.3.23 | | R6.6.18 |

| 会議名称 | 対象港湾 | 事務局 | 開催日 | | | | |
|------------------------------|------------------------------|---------|-------------------|--------------------|-------------------------------|---------|---------|
| | | | R2年度 | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 |
| 田子の浦港水際・防災対策連絡会議 | 田子の浦港 | 中部地方整備局 | | R3.7.9 R3.11.19 | R4.6.23 R5.3.23 | | R6.6.18 |
| 三河港水際・防災対策連絡会議 | 三河港 | 中部地方整備局 | | R3.7.9 | R4.6.23 R5.3.23 | | R6.6.18 |
| 衣浦港水際・防災対策連絡会議 | 衣浦港 | 中部地方整備局 | | R3.7.9 | R4.6.23 R5.3.23 | | R6.6.18 |
| 神戸港水際・防災対策連絡会議 | 神戸港 | 近畿地方整備局 | R2.9.7 R2.10.9 | R3.7.1 R3.12.23 | R4.6.20 | R5.4.25 | R6.6.17 |
| 大阪港湾水際・防災対策連絡会議 | 大阪港、堺泉北港、阪南港 | 近畿地方整備局 | R2.10.16 | R3.7.5 R3.12.23 | R4.6.20 | R5.4.25 | R6.6.17 |
| 和歌山港湾水際・防災対策連絡会議 | 和歌山下津港、日高港、新宮港 | 近畿地方整備局 | R3.3.24 | R3.7.5 R3.12.23 | R4.6.20 | R5.4.25 | R6.6.17 |
| 舞鶴港水際・防災対策連絡会議 | 舞鶴港 | 近畿地方整備局 | R3.3.22 | R3.7.5 | R4.6.20 | R5.4.25 | R6.6.17 |
| 姫路港水際・防災対策連絡会議 | 姫路港 | 近畿地方整備局 | | R3.7.7 | R4.6.20 | R5.4.25 | R6.6.17 |
| 東播磨港水際・防災対策連絡会議 | 東播磨港 | 近畿地方整備局 | | R3.7.7 | R4.6.20 | R5.4.25 | R6.6.17 |
| 尼崎西宮芦屋港水際・防災対策連絡会議 | 尼崎西宮芦屋港 | 近畿地方整備局 | | R3.7.7 R3.12.23 | R4.6.20 | R5.4.25 | R6.6.17 |
| 鳥取港水際・防災対策連絡会議 | 鳥取港 | 中国地方整備局 | R3.3.5 | R3.7.5 | R4.6.16 R5.3.24 | | R6.6.25 |
| 境港水際・防災対策連絡会議 | 境港 | 中国地方整備局 | R3.3.5 | R3.7.5 | R4.6.16 R5.3.24 | | R6.6.25 |
| 浜田港・三隅港・西郷港水際・防災対策連絡会議 | 浜田港、三隅港、西郷港 | 中国地方整備局 | R3.3.5 | R3.7.5 | R4.6.16 R5.3.24 | | R6.6.25 |
| 水島港 宇野港 岡山港水際・防災対策連絡会議 | 水島港、宇野港、岡山港 | 中国地方整備局 | R3.2.19 | R3.7.5 | R4.6.16 R5.3.24 | | R6.6.25 |
| 広島港水際・防災対策連絡会議 | 広島港 | 中国地方整備局 | R2.11.24 | R3.7.5 | R4.6.16 R5.3.24 | | R6.6.25 |
| 福山港・尾道糸崎港・呉港 水際・防災対策連絡会議 | 福山港、尾道糸崎港、呉港 | 中国地方整備局 | R3.2.26 | R3.7.5 | R4.6.16 R5.3.24 | | R6.6.25 |
| 山口県港湾水際・防災対策連絡会議 | 徳山下松港、岩国港、三田尻中関港、宇部港、小野田港 | 中国地方整備局 | R3.2.17 | R3.7.5 | R4.6.16 R5.3.24 | | R6.6.25 |
| 徳島小松島港等水際・防災対策連絡会議 | 徳島小松島港、橋港 | 四国地方整備局 | R3.2.4 | R3.7.6 R3.12.24 | R4.6.23 | R5.4.26 | R6.6.18 |
| 高松港等水際・防災対策連絡会議 | 高松港、坂出港 | 四国地方整備局 | R3.2.4 | R3.7.6 R3.12.24 | R4.6.23 | R5.4.26 | R6.6.18 |
| 松山港等水際・防災対策連絡会議 | 松山港、宇和島港、今治港、新居浜港、東予港、三島川之江港 | 四国地方整備局 | R3.2.4 | R3.7.6 R3.12.24 | R4.6.23 | R5.4.26 | R6.6.18 |
| 高知港等水際・防災対策連絡会議 | 高知港、須崎港、宿毛湾港 | 四国地方整備局 | R3.2.4 | R3.7.6 R3.12.24 | R4.6.23 | R5.4.26 | R6.6.18 |
| 下関港水際・防災対策連絡会議 | 下関港 | 九州地方整備局 | R3.3.12 | R3.7.8 | R4.6.17 R4.12.6 R5.3.9 | | R6.6.14 |
| 博多港水際・防災対策連絡会議 | 博多港 | 九州地方整備局 | R2.11.30 | R3.7.8 | R4.6.17 R4.10.27 R5.3.9 | | R6.6.14 |
| 北九州港水際・防災対策連絡会議 | 北九州港 | 九州地方整備局 | R3.3.12 | R3.7.8 | R4.6.17 R5.3.9 | | R6.6.14 |
| 三池港水際・防災対策連絡会議 | 三池港 | 九州地方整備局 | R3.3.12 | R3.7.8 | R4.6.17 R5.3.9 | | R6.6.14 |
| 苅田港水際・防災対策連絡会議 | 苅田港 | 九州地方整備局 | R3.3.12 | R3.7.8 | R4.6.17 R5.3.9 | | R6.6.14 |
| 佐賀県港湾水際・防災対策連絡会議 | 唐津港、伊万里港 | 九州地方整備局 | R3.3.12 | R3.7.8 | R4.6.17 R5.3.9 | | R6.6.14 |
| 大分県港湾水際・防災対策連絡会議 | 大分港、別府港、佐伯港、中津港、津久見港 | 九州地方整備局 | R3.3.12 | R3.7.8 R3.12.24 | R4.6.17 R5.3.9 | | R6.6.14 |
| 長崎港水際・防災対策連絡会議 | 長崎港 | 九州地方整備局 | R2.11.18 | R3.7.8 | R4.6.17 R5.3.9 | | R6.6.14 |
| 佐世保港水際・防災対策連絡会議 | 佐世保港 | 九州地方整備局 | R3.3.12 | R3.7.8 | R4.6.17 R5.3.9 | | R6.6.14 |
| 厳原港水際・防災対策連絡会議 | 厳原港 | 九州地方整備局 | R3.3.12 | R3.7.8 | R4.6.17 R5.3.9 | | R6.6.14 |
| 福江港水際・防災対策連絡会議 | 福江港 | 九州地方整備局 | R3.3.12 | R3.7.8 | R4.6.17 R5.3.9 | | R6.6.14 |
| 郷ノ浦港水際・防災対策連絡会議 | 郷ノ浦港 | 九州地方整備局 | R3.3.12 | R3.7.8 | R4.6.17 R5.3.9 | | R6.6.14 |
| 熊本港水際・防災対策連絡会議 | 熊本港 | 九州地方整備局 | R3.3.12 | R3.7.8 | R4.6.17 R5.3.9 | | R6.6.14 |
| 八代港水際・防災対策連絡会議 | 八代港 | 九州地方整備局 | R3.3.12 | R3.7.8 | R4.6.17 R5.3.9 | | R6.6.14 |
| 三角港水際・防災対策連絡会議 | 三角港 | 九州地方整備局 | R3.3.12 | R3.7.8 | R4.6.17 R5.3.9 | | R6.6.14 |
| 宮崎県港湾 水際・防災対策連絡会議 | 宮崎港、細島港、油津港 | 九州地方整備局 | R3.3.12 | R3.7.8 R3.12.24 | R4.6.17 R5.3.9 | | R6.6.14 |
| 鹿児島港・川内港・西之表港・名瀬港水際・防災対策連絡会議 | 鹿児島港、川内港、西之表港、名瀬港 | 九州地方整備局 | R3.3.12 | R3.7.8 | R4.6.17 R5.3.9 | | R6.6.14 |
| 志布志港水際・防災対策連絡会議 | 志布志港 | 九州地方整備局 | R3.3.12 | R3.7.8 | R4.6.17 R5.3.9 | | R6.6.14 |
| 沖縄本島重要港湾等水際・防災対策連絡会議 | 那覇港、運天港、金武湾港、中城湾港 | 沖縄総合事務局 | R2.11.27 | R3.7.13 | R4.6.29 R5.3.22 | | R6.7.2 |
| 平良港水際・防災対策連絡会議 | 平良港 | 沖縄総合事務局 | R3.1.26 | R3.7.13 | R4.6.29 R5.3.22 | | R6.7.2 |
| 石垣港水際・防災対策連絡会議 | 石垣港 | 沖縄総合事務局 | R3.2.2 | R3.7.13 | R4.6.29 R5.3.22 | | R6.7.2 |

注：この他にも、厚労省等からの感染症やヒアリ等に関する情報を構成員に適宜共有

世界から選ばれるリゾートアイランドを目指して ～「潮乃森ビーチフェスタ2024」から感じたポテンシャル～

沖縄市建設部東部海浜開発局

はじめに

沖縄市は、沖縄本島中部に位置し、沖縄県第2位の人口を有するまちであり、米軍嘉手納基地の門前町として栄えた歴史を持ち、異国情緒あふれるまち並みとともに、沖縄民謡とアメリカのロックを取り入れた音楽など、異文化が融合した「チャンプルー（=ごちゃ混ぜ）文化」と呼ばれる独自の文化が醸成され、県内でも類を見ないユニークなまちとなっ

ています。

また、本市は沖縄の盆おどりであるエイサーのメッカとしても知られ、本県を代表するイベントである沖縄全島エイサーまつりでは、県内外から毎年30万人もの人々が集い、「ちむどんどん（=心が高鳴る）」する多種多様なエイサーを楽しんでいます。

さらに、プロ野球 広島東洋カープの春季キャンプ地であったり、Bリーグ 琉球ゴールデンキングスや、Jリーグ FC 琉球のホームタウンとなっ

たりと、スポーツによるまちづくりにも力を入れています。本市の沖縄アリーナで開催された、FIBA バスケットボールワールドカップ 2023 のアジア地区予選で、日本代表が48年ぶりのオリンピック出場を勝ち取ったのは記憶に新しいのではないでしょうか。

東部海浜開発事業「潮乃森」について

様々な特色を持つ沖縄市ですが、市域の3割以上が米軍基地等に占められていることもあり、新たな開発用地の不足がまちの発展への大きな課題でありました。そのような中、先人たちは海に活路を見出し、新たな土地を生み出そうとスタートさせたのが東部海浜開発事業であり、本市の課題である雇用の創出やまちの活性化を行うとともに、沖縄本島東海岸地域の活性化を担うべく、国・沖縄県・沖縄市が連携して事業を進めています。

本事業は、沖縄市東部の沖合800mに位置する95haの人工島であり、市民公募により「潮乃森（しおのもり）」と名付けられ、沖縄県最大級となる900mのロングビーチを活かしたビーチフロント観光拠点の



沖縄本島における沖縄市と潮乃森の位置関係



潮乃森（95ha）の土地利用計画



潮乃森が誇る沖縄県最大級 900m のロングビーチ

創出を目指しています。

潮乃森はまだ埋立工事中であり、土地利用まで至っていませんが、概成したロングビーチを活用したイベントを実施していますので、そちらを紹介しします。

潮乃森ビーチフェスタ 2024 について

本市では、国および沖縄県、地域のみなさまの協力のもと、事業のPRと機運醸成を目的に、平成 28

年から海水浴シーズンにビーチイベントを実施し、沖縄市初となるビーチの美しさや海の青さを肌で感じてもらっています。



イベントチラシ



バナナボートとフライボードのコラボ



透明度の高い海での海水浴と海上アスレチック



1週目：ミュージックフェス
熱いライブは熱中症注意！

例年のビーチイベントは、土曜日と日曜日の2日間で開催していましたが、沖縄州市制施行50周年という節目の年であった昨年は、記念事業として8日間・4週にわたり「潮乃森ビーチフェスタ2024」を開催しました。

イベントでは、海水浴はもちろん、バナナボートやSUP、海上アスレチック、フライボードなどのマリナクティビティを無料で体験してもらい、大変好評を博しました。

また、イベント内容は4週それぞれ趣向を変え、1週目は音楽をテーマとしたミュージックフェス、2週目は健康をテーマとしたフィジーク大会やストリートワークアウト、3週目はスポーツや食をテーマとしたビーチラグビー大会やフードフェス、4週目は環境や人材育成をテーマとしたワークショップと設定し、合計の来

場者数は9,000人近くにのぼり、ビーチフロント観光拠点の創出に向け、様々な可能性を感じるイベントとなりました。

文章と写真では潮乃森のビーチのすばらしさは伝わりづらいので、ぜひ現地で体感してもらえれば幸いです。(ただし、現在は工事中なので入島はイベント時限定です... が、今年もイベントは実施予定です!)



2週目：フィジーク大会
青い海と白い砂浜に“映える”筋肉美

おわりに

本事業では、整備とあわせて企業誘致にも取り組んでおり、完成までにはまだしばらく時間を要しますが、スーパーヨットを受入れ可能なマリーナ整備の検討など、世界を視野に入れた取り組みを、国や沖縄県、そして地域のみならずと協力して鋭意進めていきますので、「潮乃森」の応援をなにとぞよろしくお願い致します!!



3週目：ビーチラグビー大会
国の垣根を越えて白熱!



@SHIONOMORI_BEACHFESTA

潮乃森ビーチフェスタ
公式Instagram



「潮乃森」紹介動画
チャンネル登録をお願いします!



4週目：ワークショップ
ペットボトルキャップをアップサイクルしたキーホルダーづくりを体験



呉市

呉市産業部港湾漁港課
観光振興課

呉市の概要

呉市は、瀬戸内海のほぼ中央部、広島県の南西部に位置し、瀬戸内海に面する陸地部と、倉橋島や安芸灘諸島などの島嶼部で構成される気候温和で自然環境に恵まれた環境の中にあります。

明治初年までは半農半漁の村落でしたが、明治19年、第二海軍区軍港に指定、同22年呉鎮守府の開庁とともに本格的な海軍基地の建設が進められ、日本一の海軍工廠を擁するまちとして発展しました。

しかし、昭和20年の敗戦で軍需基地としての都市基盤を失った上に、中心市街地が戦災で廃墟と化した中、昭和25年に旧軍施設を転活用し、平和産業都市への転

換を目指す「旧軍港市転換法」が制定されたことにより、臨海工業地帯としての基盤を確立しました。

こうした産業の基盤となる呉港は、昭和26年に重要港湾に指定され、同27年には呉市が港湾管理者となり、港の自主運営が確立され諸施設の復旧整備が進み、貿易港として生まれ変わりました。そして、昭和29年には海上自衛隊呉地方隊・呉地方総監部が設置されています。今日の呉港は造船・機械などの臨海工業群を背景とした工業港として、また海上交通の要衝として重要な役割を果たしています。

平成15年から平成17年にかけての近隣8町との合併により、美しい自然や歴史、文化、地域産業など特色のある多くの地域資源を有することになり、さらには平成17年に呉鎮守府が置かれた明治から未来にいたる呉市の歩みと科学技術の素晴らしさを語り継ぐ博物館として呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）の開館に続き平成19年には海上自衛隊呉史料館（てつのおくじら館）が開館し、多くの来館者で賑わっています。

令和5年には、島嶼部にある江戸時代に潮待ち・風待ちの港町として栄え、瀬戸内海交通の中継港として時代時代に応じた発展を示し、その痕跡を今なお残している御手洗(みたらい)と瀬戸内海の海上交通の要衝として栄え、江戸時代の大名・幕吏・公家など往来時に休息所として、また朝鮮通信使などの外交使節団も宿泊地として寄港した下蒲刈(しもかまがり)へ呉市として初の外国船籍クルーズ船の寄港が実現しました。

呉市は海軍時代からの歴史の息吹が今なお感じられるまちであり、建造中の大型コンテナ船やたくさんのクレーン、行き交う船には潜水艦があったり、そして海軍や海上自衛隊を知ることができる特徴的な施設もある一方、近傍を含め多くの旧跡にも恵まれておりますので、島嶼部だけでなく呉市中心部の呉港への客船誘致にも務めています。



呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）

呉で建造された巨大戦艦「大和」を1/10に忠実に再現。零戦、人間魚雷「回天」などの実物を展示。日本の近代化とともに歩んだ「呉の歴史」とそれを支えた造船・製鋼をはじめとした各種の「科学技術」を今に伝えます。



呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）

海上自衛隊呉史料館（てつのくじら館）

日本で唯一、実物の潜水艦を陸上展示する史料館。館内の公開ほか、海上自衛隊の歴史や掃海艇の活躍なども紹介しています。



海上自衛隊呉史料館（てつのくじら館）

アレイからすこじま

世界でも珍しく、潜水艦を間近で見ることのできる公



アレイからすこじま

園。魚雷の積み下ろしのために明治34年に設置された英国製のクレーンが護岸の南端に残されています。周辺は旧海軍工廠のレンガ建造物が並ぶレトロな雰囲気です。

下蒲刈

下蒲刈は、古くから瀬戸内海の交通の要衝として栄え、江戸時代には朝鮮通信使や参勤交代の西国大名も立ち寄った島です。三之瀬地区には、ユネスコ「世界の記憶」登録資料を所蔵する朝鮮通信使資料館「御馳走一番館」や「蘭島閣美術館」など文化施設が石畳の通りに沿って立ち並んでいます。



下蒲刈

御手洗の町並み

御手洗の町並みの特徴は、江戸時代の中頃から幕末にかけて形成されていった町の形態や構造がよく残っており、近世から近代にかけての伝統的建造物とともに高灯籠や雁木などの歴史的港湾関係遺構も保存され瀬戸内海の潮待ち・風待ちの港町としての歴史的風致をよく残しています。



御手洗の町並み

グルメ紹介

海と山に囲まれた呉市は、豊かな食材の宝庫です。

庶民的な味や歴史を感じる伝統食、温かな気候に育まれた山の幸や、穏やかな海育ちの海産物をふんだんに使用した料理が揃っています。

呉市には、地元グルメを楽しめる飲食店が数多くあります。多彩な美味しさをぜひ堪能してください。

【細うどん】

呉ならではの「細うどん」は、柔らかく細い麺が特徴。海軍工廠で働く職人たちが短い休憩時間でも手早く食事を済ませられるよう工夫されたこの麺は、今も地元の定番グルメとして親しまれています。その食感は優しく、スープとの相性も抜群。家庭でも日常的に食べられる一品です。ぜひ、懐かしさと温もりを感じながら味わってください。



細うどん

【呉冷麺】

呉のソウルフードといえば「呉冷麺」。平打ち麺に絡む甘酸っぱいタレの風味がやみつきになります。

一年を通して楽しめる「呉冷麺」を提供するお店には、連日、開店前からお客様の行列ができるほどの人気グルメとなっています。



呉冷麺

【呉海自カレー】

毎週金曜日の昼食に海上自衛隊呉基地所属の艦艇や部隊で食べられているカレー。隊員の健康を第一に考えて作られた、こだわりの詰まったこのカレーを海上自衛隊の調理員から直接教わり、約20の市内飲食店で忠実に再現して提供しています。

さらに、呉海自カレーを巡る「シールラリー」も実施中です。参加店舗で呉海自カレーを食べるとシールがもらえ、一定数を集めると限定グッズが手に入る楽しい企画。観光のついでにシールラリーに参加しながら、お気に入りのカレーを見つけるのもおすすめです。



呉海自カレー

【ちりめん】

呉の海が育んだ「ちりめん」は、イワシの稚魚を丁寧に加工した逸品。漂白をせず、自然の風味をそのまま味わえるため、全国から高い評価を受けています。



ちりめん

【牡蠣】

呉は全国有数のかき生産地！穏やかな瀬戸内海でじっくり育まれた呉の牡蠣は、大粒で濃厚な味わいが魅力。寒さが厳しくなるほど旨味が凝縮されます。毎年冬に各地で開催される「かき祭り」では、焼き牡蠣やフライなどの様々な調理法で堪能できます。地元ならではの贅沢なグルメをぜひお楽しみください。



牡蠣

【大長みかん】

豊・豊浜の大長みかんは全国に誇るブランド。コクがあり甘くさわやかな味が魅力です。地元では贈答用としても重宝されており、旅行のお土産にも最適です。



大長みかん

【お宝トマト】

倉橋地区で育てられる「お宝トマト」は、冬春トマトの代表格。その深紅の見た目と、ぎゅっと詰まった果肉の濃い味わいが特徴です。



お宝トマト

【レモン】

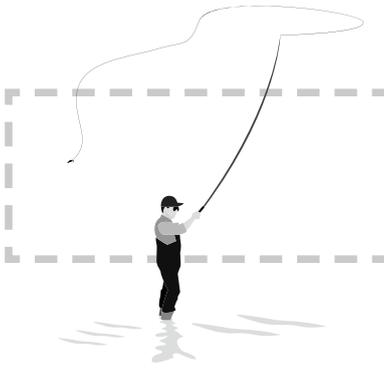
呉市はレモンの出荷量日本一を誇る、日本を代表するレモンの産地。その中でも「豊地区」は広島県産レモン発祥の地として知られています。瀬戸内海の温暖な気候と肥沃な土地で育てられたレモンは、爽やかな酸味と香りが特徴です。安全面にも配慮し栽培されているので皮ごと召し上がれます。



レモン

最後に

令和7年2月から大和ミュージアムが大規模リニューアル工事のため休館になりますが、休館対策として市内各地で「呉・大博覧会」と銘打って様々なイベントを実施しますので、是非お越しください。



海と天使たちの2024

愛知県釣りインストラクター連絡機構
顧問 大田豊明



猛暑だった2023。さらに上回る炎暑の2024年。いまや気温が40度を超える日は珍しくなく、伊勢湾内の海水温が30度というのも見慣れた。

気象庁によれば「2024年の年平均気温偏差(1991～2020年の30年間の平均値)は+1.64℃で、統計開始の1898年以降、2023年を大きく上回り、最も高い」。一方海面水温については「日本近海における2023年までのおよそ100年間にわたる平均海面水温の上昇率は+1.28℃/100年。この上昇は世界平均の海面水温上昇率(+0.61℃)よりも高く、日本の気温の上昇率(+1.35℃/100年)と同程度である」と記している。

朝日新聞2024年5月の記事では、岩手県宮古市でイセエビが獲

れたという。イセエビは主に温かい海に生息し、国内の北限はかつて茨城県沖とされていた。宮古市の県立水産科学館の話によれば、地元宮古湾で2021年に初めて2匹確認され、22年はゼロ、23年は18匹、という。

西日本が名産の太刀魚はこの10年、大分、愛媛、和歌山の3県合計で1/6に減った。一方、岩手、宮

城、福島の3県は合計で25倍となったと報じる。

私の釣りは30代に投げ釣りの全国組織「全日本サーフ」に入会したことから本格化。同団体は今年、創立60周年を迎えた。活動の両輪は「大物釣り」と「キャストイング(遠投技術)」。草創期の先人は、釣り人にありがちな多獲を戒めた。そ



釣り指導



キューセンとハゼ



糸の結びかた指導



釣り指導



大きなキスダブル



タケノコメバル



アジが釣れました



クジメ



良型キス



キスよ～



マゴチ



カサゴ



セイゴだよ

の理念が「楽しみを釣る」。釣りを目的にし、たくさん釣ろうとするからトラブルが起こる。釣りは手段に過ぎないと教える。では目的はなにか？ 答えが「楽しみを釣る」である。規定以上の大きい魚を釣れば、表彰するシステムをとり入れた。例えばキスは最低26cm以上、カレイやマダイ、アイナメは30cm以上とし、釣った都度申請すれば生涯記録として認定し、大物1号からバッジが貰えた。バッジを集めるのも会員の楽しみになった。1万人近い会員の大物記録(魚種、県別釣魚数)が設立時の1964(昭和39)年から手元にある。

大物魚が申請されると会報で情報を共有する。大物を釣りたい会員は当該協会へ連絡をとり、釣りに出かける。

大きい魚が釣れたとなれば、吸い寄せられるように全国から会員が集まってくる。県別釣魚数は、今どこで何が釣れているかを見事に表している。

温暖化によるカレイ北上の動きをこの資料から考察しよう。かつて瀬戸内海で40cmを超える大物が釣れた。私も1983(昭和58)年にイシガレイ51.1cmを徳島県鳴門で釣った。しかし海水温の上昇などで、2000年ころから魚類の北上が始まり、今や大カレイは北海道がメッカになった。

具体例として瀬戸内海の愛媛県と北海道の大物カレイ(30cm以上)の30年間の釣魚数推移を検証する。

まず愛媛県。1994～2003年の10年で4,569匹釣れ、2004～2013年は2,987匹、2014～2023年は2,139匹と半減している。30年間の合計釣魚数は9,695匹。

一方北海道は1994～2003年2,916匹、2004～2013年は3,190匹、2014～2023年が5,965匹と倍増し、30年間の総釣魚数は12,071匹である。瀬戸内海の凋落と北海道の躍進が伺える。本例が魚類北上の一端を表しているのではないだろうか。



やったね



ハゼとネズボ

2024年も知多半島でファミリー中心の「釣り教室」を18回開催した。釣りの基本、潮汐、海象、自然環境、救命具の重要性、ルール・マナーなどを教え、清掃を行った。

伊勢湾も温暖化による自然界の変調が見られる。2023年、りんくう常滑の投げ釣りで、初めてダイナウミヘビが釣れた。私の記憶では昭和50年代後半、鹿児島県内之浦湾で釣って以来である。アイナメが姿を消し、アイゴやサメ、エイが増えた。

今号ではレンズがとらえた水辺の天使たちの笑顔2024年版をお届けする。「釣りっていいな!」と思う。幼きかれらの未来のためにも、豊かな自然を残していきたい。

最後にご支援いただいた釣りメーカーのがまかつ様、グローブライド様、マルキュー様に深謝申し上げます。

直治説く「釣りは師を釣れ」春の潮

豊明



6月フレンドリーカップ釣り大会 (常滑市)



11月フレンドリーカップ釣り大会 (常滑市)



9月親子釣り教室 (美浜町)

原稿募集のお知らせ

本誌では、読者相互の交流・情報交換を図るため、読者の皆様からの投稿コーナーを設けています。採用させていただいた方には薄謝、掲載誌を差し上げます（応募者多数の場合は、すべて掲載できないこともあります）。皆様のご応募、お待ちしております。

■コラム「私と海岸」(毎号2名程度掲載予定)

ビーチ・海岸に関わる趣味の話、体験談、失敗談、おもしろ話、身近なこと、旅行話等、なんでも結構ですので、気軽にご投稿ください。

- ①文字数: 1,000~1,500字程度 (本誌1ページ分) ②テーマに沿ったお写真2~3枚程度

■「TOPICS」

「波となぎさ」に掲載された活動の“その後”をお知らせしたい、「今、こんな取り組みをしています」——そうした情報の原稿をお待ちしています。

- ①文字数: 1,500字程度 (本誌1ページ分) ②テーマに沿ったお写真、図表2~4枚程度

■「ビーチライフ」

皆様の「ビーチライフ」に関するさまざまな活動や体験についての原稿を募集します。

- ①文字数: 4,000~6,000字程度 (本誌2ページ分) ②テーマに沿ったお写真、図表3~7枚程度

■原稿送付先：郵送、FAX、メールにて承ります。

原稿形式は、データ、原稿用紙いずれも承ります。原稿送付の際には後日編集部からご連絡させていただきますので、ご連絡先等を必ず明記してください。

- ①郵送先: 〒107-0052 東京都港区赤坂3-3-5 住友生命山王ビル8階 日本港湾協会内 港湾海岸防災協議会
「波となぎさ」編集担当宛
②FAX: 03-3505-5400
③<https://www.tbsglowdia.co.jp/>

※原稿に関するお問い合わせは上記URL③からお問い合わせください。

波となぎさ
No.222

発行 令和7年2月28日
発行所 港湾海岸防災協議会
〒107-0052 東京都港区赤坂3-3-5 住友生命山王ビル8階
TEL. 03-5549-9575 (代表)

発行兼編集者 佐々木 利広

印刷所 株式会社 TBSグロウディア
〒107-6112 東京都港区赤坂5-2-20
TEL. 03-6230-8934

新たな挑戦が始まる

An Era of New Challenge Begins

五洋建設は、海の土木にはじまり、陸の土木、建築へと
業容を拡大してまいりました

DNA である進取の精神でデジタルとグリーンに挑戦します
部門の垣根を越えて、グローバルに
さらにその先の未来へ



若き感性、築いた伝統。

社会が進化する。ニーズは多様化する。

そのスピードは早まっている。しかし私たちは動じない。

海洋土木という海原で果敢にチャレンジしてきた

しなやかで若い感性が息づいているから。

世界をきり拓いてきた技術力とノウハウ

そして築きあげた伝統があるから。

安全と安心を守る。豊かな暮らしを作る。

そして、次の時代を生み出していく。

世の中が変わっても、その志は変わらない。

若築建設



若築建設

〒153-0064 東京都目黒区下目黒 2-23-18

TEL.03-3492-0271 FAX.03-3490-1019

www.wakachiku.co.jp

海風とかなえる カーボンニュートラル

1929年の創業から1世紀にわたり

海とともに歴史を紡いできた誇りを胸に、

「洋上風力発電」への取り組みをさらに加速し、

社会課題の解決や豊かな未来づくりに貢献します。

夢から感動へーハートテクノロジー



〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105
TEL.03-6361-5450

<https://www.toyo-const.co.jp/>



ここにしかない技術で未来を支える。



株式会社 不動テトラ

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町7番2号 ペンてるビル
TEL.03-5644-8500



防波堤消波工 (クリンガー)

緩傾斜護岸 (スカラ)



消波・根固ブロック
クリンガー



根固・被覆・傾斜堤ブロック
ホロースケヤー



護床・根固ブロック
リバーston



緩傾斜・階段ブロック
スカラ



菱和コンクリート株式会社

本社 〒112-0012 東京都文京区大塚 3-5-9 (住友成泉小石川ビル別館 6階)
TEL 03-5981-8691 FAX 03-5981-8692

北海道支店 TEL 011-860-8333 東京支店 TEL 03-5981-8693
東北支店 TEL 022-217-2167 大阪支店 TEL 06-6307-2630
福岡支店 TEL 092-481-7363

自然と人を技術で結ぶ

株式会社 **ニュージェック**
<http://www.newjec.co.jp>

○大阪本社
大阪市北区本庄東2-3-20 TEL. 06-6374-4901
○東京本社
東京都江東区亀戸1-5-7 TEL. 03-5628-7201

みなと、海、地球、そして未来へ…



Japan Port Consultants

株式会社 **日本港湾コンサルタント**

本 社：東京都品川区大崎 1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー
<http://www.jportc.co.jp>

未来は、つくりがいがある。

この街の未来をつくるために、本間組は考動する。
地域の声に耳を澄まし、いま、できることを全てやる。
未来という形ないものと向き合いながら、
今日も、私たちは走り続けます。



本間組

HONMA

新潟市中央区西湊町通三ノ町3300番地3 TEL025-229-2511(代表)

「海岸保全施設の技術上の基準・同解説 (H30年8月)」の 出版のお知らせ

H23年3月の東北地方太平洋沖地震・津波によって大きな被害が発生したことを受け、また近年の技術の進展等を踏まえ、H16年に作成された「海岸保全施設の技術上の基準・同解説」が2018年8月に改訂されました。

(公社)日本港湾協会では、改訂された「海岸保全施設の技術上の基準・同解説」を販売しております。

「海岸保全施設の技術上の基準・同解説」の 改訂のポイント

- ・設計津波、津波波力
- ・設計を超える外力に対して施設の損傷等を軽減する機能
- ・設計津波を生じさせる地震
- ・うねり、マウンド透過波
- ・人工リーフ・潜堤
- ・水門、樋門、陸閘の設計および自動化・遠隔操作化
- ・維持管理

に関する記述の追加や充実が行われました。

海岸保全施設の
技術上の基準・同解説

平成30年8月

全国農地海岸保全協会
公益社団法人 全国漁港漁場協会
一般社団法人 全国海岸協会
公益社団法人 日本港湾協会

本書はA4判、366頁で、
価格は7000円(税抜き)です。

購入を希望する方は、日本港湾協会のホームページ(<https://www.phaj.or.jp/>)の「書籍」からお申し込みください。

(公社)日本港湾協会

